The Little Singers of Tokyo 45th Anniversary

"Holding Hand-in-Hand Concert"

Welcoming

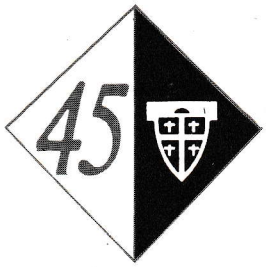
Mädchenchor Hannover

Wed 27th. Mar. 1996 7:00p.m.
SUNTORY HALL

東京少年少女合唱隊45周年記念

手をつなごうコンサート'96

ハノーバー少女合唱団を迎えて



1996年3月27日(水)7時開演　サントリーホール

主催:東京少年少女合唱隊　後援:ドイツ連邦共和国大使館／GOETHE INSTITUT 東京ドイツ文化センター／L.C.(リトルクワイヤー)基金／協賛:アサヒビール芸術文化財団

Konzertprogramm

第1部

東京少年少女合唱隊

Codex Las Huelgas
ラス・ウエルガス写本
(13c.-14c.)

Benedicamus Domino
われら主を祝福せん

Maria, virgo virginum
乙女の中の乙女なるマリア

♣♥★
指揮　長谷川冴子

J.Ockeghem
オケゲム
(c1410-1497)

Missa "L'homme armé"
ミサ「武装した人」より
Kyrie キリエ
Gloria グローリア

★◆
指揮　長谷川久恵

合同演奏

G. Holst
ホルスト
(1874-1934)

Ave Maria
アヴェ・マリア

指揮　G.シュレーフェル

J. Rheinberger
ラインベルガー
(1839-1901)

Wie lieblich sind deine Wohnungen
御身が住居はいかに愛すべきところなるか

指揮　G.シュレーフェル
ピアノ　A.シュナウス

ハノーバー少女合唱団

G. Holst
ホルスト
(1874-1934)

Choral Hymns from the Rig Veda
リグ・ヴェーダからの合唱賛歌
Hymn to the Dawn 曙への賛歌
Hymn to the Waters 水への賛歌
Hymn to Vena ヴェーナへの賛歌
Hymn from the Travellers 旅人への賛歌

指揮　G.シュレーフェル
ピアノ　A.シュナウス

P. Eben
エベン
(1929-)

Dizionario Grego
ギリシャ語辞典
Megalofrosyné 高潔
Kalolagathia 善意
Machés Epithymia 戦闘意欲
Agapé Hetairia 愛―仲間
Thanatos 死
Aganaktésis 憤慨
Algédon 苦痛
Amfisbétésis 論議

指揮　G.シュレーフェル
ピアノ　A.シュナウス

♣…A組(小学5年～中学2年)
♥…B組(小学2年～4年)
♠…C組(年長～小学3年)
★…シニア・コア(女声)
◆…ユース・コア(男声)

第2部

東京少年少女合唱隊

B. Bartók
バルトーク
(1881-1945)

Négy régi Magyar népdalok
4つのハンガリー民謡
I. A rad とらわれて
IV. Dal 恋のうた

★◆
指揮　長谷川冴子

kórusmüvei
27の合唱曲より
Isten Veled! さようなら!

♣★
指揮　長谷川冴子

Z. Jeney
イエネイ*(1943-)*

Madarhivogoto
小鳥のお誘い　河井エーヴァ・訳、荒牧裕晴・補作

♣♥♠★
指揮　花澤利枝子

ハノーバー少女合唱団

J. Brahms
ブラームス
(1833-1897)

Zwölf Lieder und Romanzen
12の歌曲とロマンス
Der Bräutigam 花婿
Die Müllerin 水車小屋の娘
Und gehst du über den Kirchhof そしてお前は墓地へ行く
Nun stehn die Rosen in Blüte 薔薇の花が咲き

指揮　L.ルット
ピアノ　A.シュナウス

R. Strauss
シュトラウス
(1864-1949)

Befreit op.39-4
解放　作品39の4
Allerseelen op.10-8
万霊節　作品10の8

ソプラノ　K.ピーヴェック
ピアノ　A.シュナウス

A. Koerppen
ケルペン
(1926-)

Vier deutsche Volkslieder
4つのドイツ民謡
Wenn ich nach Amorbach geh 私はアモールバッハへいくとき
Es soll sich doch kciner mit der Liebe abgeben 愛と関わらない者はない
Wer jagen will 狩りをしよとする者は
Lustig ist's vor allen Dingen 何よりもまず楽しく

指揮　L.ルット
ピアノ　A.シュナウス

G.D.Da Nola
ノーラ
(c.1510-1592)

Chi la gagliarda
ガリアルダを習いたいのはどなたかな

指揮　G.シュレーフェル

Clemens non Papa
クレメンス・ノン・パパ
(1500-1558)

Ich sag ade
私は別れを告げる
Es gingen zwei Gespielen gut
ふたりの幼友だちが仲良く

合同演奏

H. Rutt
ルット
(1958-)

The Duck and Kangaroo
アヒルとカンガルー

指揮　L.ルット
ピアノ　A.シュナウス

GRUSSWORT

"Hand in Hand, so ziehen sie singend durch das Land", so heißt ein deutscher Reim, und dies darf man zu Recht von dem Mädchenchor Hannover und den Little Tokyo Singers behaupten.

Der geographischen Entfernung zum Trotz verbindet die Chöre eine vergleichbare Entwicklung.
Gegründet in den harten Nachkriegsjahren entstand in Deutschland wie in Japan ein Konzertchor mit ebenso hohem musikalischen wie pädagogischen Anspruch an sich selbst, der neue Maßstäbe im Chorgesang setzte. Der Erfolg ließ nicht lange auf sich warten wie die zahlreichen Tourneen in aller Herren Länder bezeugen.

Beide Chöre feiern Ihr 45-jähriges Bestehen bzw. stehen kurz davor. Mit ihrer international erfolgreichen Tätigkeit verkörpern die jungen Sänger den Gedanken der Völkerverständigung in vollendeter Form und leisten damit einen unverzichtbaren Beitrag für die deutsch-japanischen Kulturbeziehungen.

Ich begrüße den Mädchenchor Hannover sowie die Little Singers of Tokyo herzlich und wünsche Ihnen besten Erfolg bei dem verwöhnten japanischen Publikum.

Dr. Heinrich-D. Dieckmmann
Botschafter der
Bundesrepublik Deutschland

御　挨　拶

「手をつなぎ、共に歌い国中を巡り行く」とドイツの詩にうたわれております。この詩こそ誠にハノーバー少女合唱団と東京少年少女合唱隊を言い得て妙というものでありましょう。

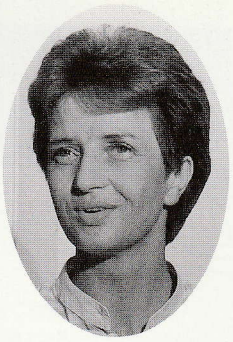
二つの合唱団は遠く離れているにもかかわらず、その成長の過程は類似しており、これが両合唱団を結びつけているのであります。

戦後の厳しい年月の中で、ドイツと日本夫々において音楽的にも、教育学的にも自らに高い水準を求める合唱団が生まれました。これは合唱というものに新たな規範をおくものとなったのです。日ならずして両合唱団は数々の公演で世界の人々に認められ、大きな成果を収めることとなりました。

両合唱団の内一つは45周年を迎え、もう一つは間もなく45周年を祝うこととなっております。国際的に活躍し、成果を収め、若き合唱団員達は国際協調の考えを非のうちどろないまで具現し、それにより日独の文化関係に欠くことのできない貢献を果たしているのであります。

ハノーバー少女合唱団と東京少年少女合唱隊に心からのメッセージを送り、質の高い演奏に慣れた日本の皆様の下で大きな成果を収められますよう願って止みません。

ドイツ連邦共和国大使
ドクトル　ハンリツヒ　D.ディークマン



Die "Little Singers of Tokyo" feiern 1996 das 45jährige Bestehen. Dazu übermittle ich meine herzlichen Glückwünsche und tue dies zugleich im Namen der niedersächsischen Landeshauptstadt Hannover.

Es freut mich, daß der hervorragende Mädchenchor Hannover in Japan zu Gast sein wird, wenn am 27. März 1996 in Tokio ein Festkonzert mit dem Titel "Holding Hand in Hand Concert" stattfindet. Damit werden die freundschaftlichen Kontakte zwischen den "Little Singers of Tokyo" und dem Mädchenchor Hannover weiter intensiviert. Für die hannoverschen Chormädchen wird es sicherlich etwas besonderes sein, wenn sie bei ihrem Aufenthalt in Tokio in Familien der japanischen Gastgeber wohnen werden. Dies ist der beste Weg, Bräuche und Sitten einer anderen Kultur kennenzulernen.

Ich wünsche den "Little Singers of Tokyo" eine gedeihliche Entwicklung und dem Mädchenchor Hannover eine erfolgreiche Japan-Konzert-Reise, die den Chor auch in unsere Partnerstadt Hiroshima führen wird.

Oberbürgermeister
der Landeshauptstadt Hannover
Herbert Schmalstieg

Die "Little Singers of Tokyo" feiern in diesem Jahr ihr 45-jähriges Bestehen; dazu möchten wir ihnen unsere herzlichen Glückwünsche überbringen. Wir wissen, was es bedeutet, einen Jugendchor über Jahrzehnte auf einem musikalisch und sängerisch hohen Niveau zu halten. Saeko Hasegawa hat diese Leistung vollbracht, dafür zollen wir ihr unsere Hochachtung und gratulieren von Herzen.

Unser gemeinsames Konzert in Tokyo unter dem Motto "Holding Hand in Hand Concert" soll die seit 1980 bestehende Freundschaft zwischen beiden Chören vertiefen und die musikalischen Verbindungen erneuern. Im gemeinsamen Bemühen um musikalisch gültige Interpretationen wollen wir voneinander lernen.

Saeko Hasegawa sei herzlich gedankt für ihre unendliche Mühe bei der Planung unserer Konzerttournee 1996 durch Japan.

(Ludwig Rutt)
Chorleiter

(Gudrun Schröfel)
Chorleiterin

1996年に創立45周年を迎えられる東京少年少女合唱隊に、私自身の気持ちと共に、また、ニーダーザクセン州都ハノーバーを代表して心からお祝い申し上げます。

東京で行なわれますお祝いの演奏会「手をつなごうコンサート」に私たちの誇りであるハノーバー少女合唱団がゲストとして招かれるのは大変喜ばしいことです。両合唱団の友好関係が更に深められることでしょう。合唱団のメンバーにとっては、東京でのホームステイがきっと何か特別の経験になる事と思います。異文化の習慣や作法を知る上での最上の方法だからです。

東京少年少女合唱隊の今後の発展と、ハノーバー少女合唱団の日本コンサートツアーが実りあるものとなることをお祈り申し上げます。

ハノーバー市長
ヘルベルト・シュマルシュティーク

今年創立45周年を迎えられる東京少年少女合唱隊に心からお祝い申し上げます。

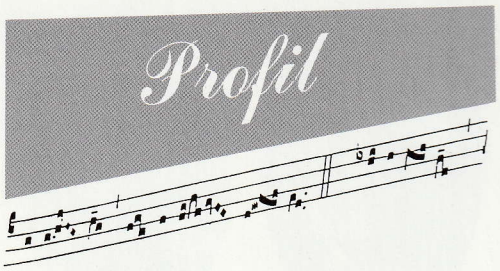
一つの児童合唱団の水準を何十年にも渡って音楽的にも歌唱能力的にも高く維持することがいかに大変な事であるかを、私たちはよく存じております。優れた成果をあげられた長谷川冴子氏に対して私たちは大きな尊敬を抱くと共に、心からお喜び申し上げます。

「手をつなごうコンサート　－Holdinig Hand in Hand Concert」というフレーズの下に行なわれます東京での私たちのジョイントコンサートは、1980年以来両合唱団の間に結ばれた友好を深め、かつ新しい音楽的関係を築くべきものです。音楽性豊かな演奏を求める努力の中に、私たちが互いに学びあうことを願っております。

最後に、私たちの1996年日本コンサートツアー企画にあたり、大きな協力を寄せてくださった長谷川冴子氏に熱く御礼申し上げます。

合唱指揮者
ルートヴィヒ・ルット

合唱指揮者
グトルン・シュレーフェル



ハノーバー少女合唱団 プロフィール

ハノーバー少女合唱団は1952年の創立以来最もすぐれた合唱団の一つとして評価され、コンサート、ディスク録音（グラモフォン）、ＴＶ、ラジオ出演と幅広い活動を行なっている。海外遠征も多く、ヨーロッパ全土、トルコ、ロシア、日本、南アメリカ、アメリカ合衆国等、国内外で高い評価を得ている。ヨーロッパが誇る合唱伝統において、少女合唱の歴史は殆ど存在が明らかでない中、ハノーバー少女合唱団の目覚ましい活動は、世界の少女合唱の発展に大きな影響を及ぼしている。

この活動の先駆者はL.ルット教授であり、創立以来の指揮者として、副指揮者のG.シュレーフェル女史と共に少女たちの高質な教育を続けている。

レパートリーはこれまでの古典派、ロマン派、近代作品に見る女声合唱曲に加え、この合唱団の特色ともいえる現代作品も数多くあり、演奏プログラムをより一層多才にしている。A.ケルペン、A.クゼビック、S.シュトローバッハを始めとする多くの現代作曲家による同声合唱のための委嘱作品の発表は60年代より活発に行なわれ、合唱音楽、特に女声合唱作品への新しい世界を展開している。

指揮者　ルートヴィヒ・ルット
LUDWIG RUTT

ルートヴィヒ・ルット氏は1921年ドルトムント（独北西部）に生まれ、少年時代は「ケルン大聖堂聖歌隊」で歌っていた。そして厳しい戦争、兵役の後、1946年から1954年までハノーバーの音楽演劇学院（現・大学）に学び、フリッツ Ｖ.ブローやライマー・ダールグルン、バーナード・エベルト等に師事した。また、指揮、作曲家、ピアノ教師としての最終資格を得てからは、ピアノの個人教師、聖ウルスラ小学校教師として彼の音楽活動は始まった。当初始めたいくつかの合唱団は現在も存続し、オラトリオ等の大曲に挑んでいる。

ハノーバー大学のコーラスで40年間指導をしてきた功績により、名誉学位が与えられている。また、1976年から1986年まではハノーバーの音楽演劇大学に於いて講師としてピアノの指導にあたってきた。国の音楽評議会（ランデスムジクラット）は、合唱指導者用研修を行なうにあたって何度も彼を任命しており、1989年には音楽と青少年の協会がヴォルフェンビュッテルにある“ユーロトレフ”のコーラス・スタジオの責任者を彼に移している。

1977年には、ルートヴィヒ・ルット氏にドイツ連邦共和国の勲位、ブンデスフェルディンシュトゥルクロイツ（英国のＯＢＥ）が贈られた。

ハノーバー少女合唱団の活躍は、1952年以来急速に国内で認められてきているが、ルット氏の熱心な芸術的教育の成果であった、と言える。また、その後、1984年彼が創始者となったヨハネス・ブラームス合唱団での活動とも合わせて、彼は国内外において現代合唱音楽に努力を惜しまない、多才で優れた合唱指導者としての名を得ることとなった。

グトルン・シュレーフェル
GUDRUN SCHRÖFEL

グトルン・シュレーフェル女史はヴァームスに生まれ、13才の時にハノーバー少女合唱団に入団した。音楽を学び始めた当初から独自の課題を与えられてきた。

最初は合唱団の指揮者のアシスタント、そしてグループや個人のヴォイス・トレーナーとして働いていたが、次第にコンサート等でコーラスの指揮を受け持つようになった。こうしたことからルートヴィヒ・ルット氏と共にコーラスを密接に協力し合いながら指導にあたっている。

この二人の指揮者が、星座のようにつねに一緒であり、創意豊かに交替していることはプロ的傾向の強い合唱団における芸術的特徴とも言える。またその効果は十分な声量と音楽的解釈という印象的な組み合わせの基本でもあり、少女合唱団の演奏やリハーサルでも表れている。

ハノーバー音楽演劇大学の教育課程の中でグトルン・シュレーフェル女史は、カールハインツ・ピンハンマーのもとで学校教師のための音楽や歌唱テクニックなどの科目も学んだ。指揮はフリッツ V.ブローとハインツ・ヘニッヒの指導を受け、最終的にはエリック・エリクソンとヘルムート・リリンクのもとで学んだ。

1975年から1985年までは、特別に音楽部門の設けられているハノーバーのゲーテ・スクールという中高一貫の音楽専門学校で教鞭を取り、オーケストラとコーラスの指導にあたった。これに加え、リートやオラトリオ等、様々なコンサート活動への発展を遂げ、イスラエルやアメリカその他でも客員演奏を行なった。

今日、彼女は声楽教育の専門家としても高く評価され、しばしば専門の教育機関に招待され、アメリカを始め各地で主として声楽教育やコーラスの指揮の指導を続けている。

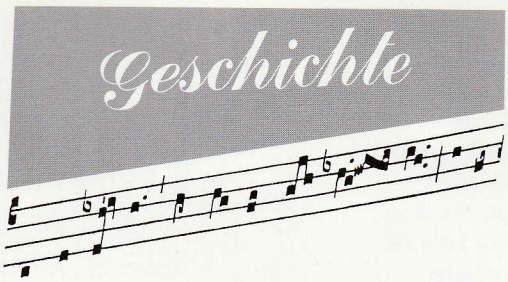
1985年にはエッセンのフォルクヴァンク・スクールで音楽教育の教授として迎え入れられた。このポストは1989年彼女がハノーバー音楽演劇大学へ転任となっても変わらない。

ハノーバー少女合唱団メンバーリスト

Stephanie Henke	シュテファニー・ヘンケ	22歳
Tabea Schröder	ターベア・シュレーダー	14歳
Shalini Gäbel	シャリーニ・ゲーベル	19歳
Antje Walter	アンティエ・ヴァルター	17歳
Alexandra Dieck	アレクサンドラ・ディーク	19歳
Sonat Ertürk	ゾナート・エルテュルク	13歳
Nicola Schröter	ニコラ・シュレーター	19歳
Juliane Schermer	ユリアーネ・シェルマー	19歳
Hilke Seeba	ヒルケ・ゼーバ	20歳
Stephanie Jäschke	シュテファニー・イエシュケ	17歳
Christina Samel	クリスティナ・ザーメル	15歳
Melanie Dargatz	メラニー・ダルガッツ	17歳
Si-Yen Cho	スィーイエン・チョウ	16歳
Almut Fries	アルムート・フリース	18歳
Nina Schnell	ニーナ・シュネル	18歳
Julia Bartels	ユーリア・バルテルス	21歳
Friederike Stephan	フリーデリケ・シュテファン	22歳
Lilly Weber	リリー・ヴェーバー	14歳
Pia Dallmeier	ピア・ダルマイヤー	14歳
Frauke König	フラウケ・ケーニヒ	17歳
Angela Jankowski	アンジェラ・ヤンコフスキ	15歳
Nadja Dill	ナディア・ディル	15歳
Maren Sohnemann	マーレン・ゾーネマン	18歳
Franziska Holub	フランツィスカ・ホールプ	17歳
Sandra Wilkening	ザンドラ・ヴィルケニング	16歳
Adriane Oberborbeck	アドリアーネ・オーバーボルベック	15歳
Linda Koziura	リンダ・コツィウラ	16歳
Beatrice Dubuc	ベアトリーチェ・デューブック	15歳
Friderike Stahmer	フリーデリケ・シュターマー	16歳
Ania Wegrzyn	アーニャ・ヴェーグルツィン	13歳
Stephanie Ohk	シュテファニー・オーク	19歳
Victoria Meyer-Hoffmann	ヴィクトリア・マイヤー・ホフマン	16歳
Barbara Friedrich	バーバラ・フリードリヒ	16歳
Nanni Hecker	ナンニ・ヘッカー	16歳
Agnes Brida	アグネス・ブリーダ	16歳
Raania Kaboni	ラーニャ・カボーニ	17歳
Tahera Ali	ターヘラ・アリ	18歳
Neele Hinrichs	ネーレ・ヒンリヒス	13歳
Katharina Sanner	カタリーナ・ザナー	15歳
Marie Schröder	マリー・シュレダー	15歳
Anke Grell	アンケ・グレル	20歳
Marina Rohl	マリーナ・ロール	16歳
Kristina Neukirch	クリスティーナ・ノイキルヒ	20歳
Mascha Schmidt	マーシャ・シュミット	15歳
Alexandra Wolf	アレクサンドラ・ヴォルフ	18歳
Katrin Häfer	カトリン・ヘーファー	15歳
Nicola Henke	ニコラ・ヘンケ	17歳
Simone Garbe	ズィモーネ・ガルベ	18歳
Annika Braun	アニカ・ブラウン	15歳
Sandra Botor	ザンドラ・ボートル	15歳
Daniela Laschinski	ダニエラ・ラシンスキ	21歳
Anika Wolf	アーニカ・ヴォルフ	13歳
Miriam Whisnant	ミリアム・ウィスナント	16歳
Sonja Zvibulis	ソーニャ・ツビブリス	16歳

指導者

Gudrun Rutt	グトルン・ルット(団長)
Ludwig Rutt	ルートヴィヒ・ルット(指揮者)
Gudrun Schröfel	グトルン・シュレーフェル(指揮者)
Katja Pieweck	カーチャ・ピーヴェック(ソプラノ)
Andrea Schnaus	アンドレア・シュナウス(ピアニスト)
Anke Neukirch	アンケ・ノイキルヒ(指導者)
Hans Holub	ハンス・ホールプ(ツァーマネージャー)

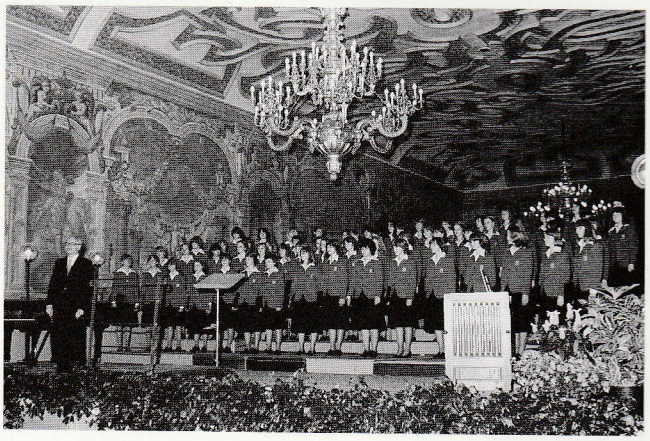


ハノーバー少女合唱団

その歴史的、音楽的、教育的局面

Dr.ペーター・シュナウス
ハノーバー音楽演劇大学教授

英訳　ハンス・ヴァーナー
和訳　赤澤　和子



少女合唱団とは何か？

一見簡単そうな質問だが、ひと言で答えるのは難しい。だがハノーバー少女合唱団が、「少女合唱」という部門の創案者であったと言っても過言ではない。少なくとも国際的な合唱音楽の中でこの部門を確立させ、芸術的側面を与えたことから作曲意欲を抱かせた功績は多大である。

しかしながら「少女合唱」の基準や効果について、例えば人数や音域、歌い手の年齢層、音色、特色等に関して正確な枠を定め、明確にすることは不可能であり、さほど有益とは言えない。だが学問の範囲にある種の寛容性を持たせることが、楽曲の練習においても有利であることは客観的、歴史的、声帯学的、そして文体論からみても十分に根拠のあることと言えるだろう。

聖歌隊そのものの歴史上、少女のための聖歌隊という永続的な伝統はない。これはヨーロッパ社会における女性の立場、特に教会で女性が歌うことが禁止されていたためであった。長い間職業としての聖歌隊音楽は、教会の聖歌隊で歌う男性や少年達のためにあった。こうした中でも17世紀から18世紀のイタリアには、オスペダリ（貧しい人のための家、孤児院、病院）のように著名な音楽の教育機関が存在していた。そして、少女達が素晴しい結果を生み出したことからその演奏は各方面で絶大な賞賛を浴び、ヴェニスを訪れる音楽愛好家たちはコンサートに行くことを欠かさなかった。教師陣の中にはガスパリやヴィヴァルディ、ポルポラ、ガルッピ、ハッセ、ヨンメッリのような著名な音楽家もおり、彼らはアンサンブルを指揮し、そこで演奏するための音楽を作曲した。だが、18世紀後半、オスペダリは急速に衰え、19世紀初期にはその教育とともに音楽活動にも終止符が打たれた。

少女たちのためにある合唱教育は、他の国々でも特異なものであった。それらは、主に何らかの資格を持った女子校に所属するものであり、全て個人の合唱指導者や音楽教師が自主的に行なっていたものであった。フランスの最も有名な例は、サン・シール（ヴェルサイユ近郊）のメゾン・ロワイヤルの少女聖歌隊であり、1686年から1791年、即ちこの機関が存在していた間、有名な作曲家たち（ここで働いていたオルガン奏者のL.N.クレランボーなど参加）の作品を演奏していた。聖歌隊はオペラに参加し、ルイ十四世の宮廷での演奏も行った。

19世紀初め、それまで僧院や修道院、大聖堂、宮廷、学校などと密接なつながりのあった合唱音楽は世の中全般に広められることとなり、合唱の様々な分野における環境も大きく変化した。この頃、スイスやドイツ南方を発端に急速に繁栄したアマチュア歌手の動きは無数の合唱グループの基礎となったが、これらの動きに女性や少女の合唱団が関わっていなかったことも注目すべき点であろう。また創立された男性コーラスでは、歌よりも社交の場としての重要性を第一に考える者さえあった。

女声コーラスが、ここかしこで加わっていったのはその後のことであり、そのことによって混声四部合唱が可能となった。さらに、伝統あるベルリン・シングアカデミーのように大きなオラトリオ作品の演奏を目的とした混声合唱団もあった。時にはこの中から女声コーラスが発展することもあったが、臨時に編成され、定期的な練習を継続して行なうことはあまりなかった。ローベルト・シューマンのドレスデンにおける女声だけのコーラスはこのような

星の巡り合わせから起こった。

1859年ヨハネス・ブラームスによって創設され、彼がいくつもの作品を作曲した活動的な女声合唱団では、声楽アカデミーの歌い手が固定のメンバーとなっていた。合唱界の変動期であった19世紀において、少女合唱団の創設については、原則として学校であること以外の規定は特になかった。20世紀に入ってからも基本的にはこの状況に変わりはない。確かに当時のドイツの若者の間の音楽の傾向や20年代の音楽教育は、歌うことの重要性を教育の場で子供や若者に強調し、このことが児童や若い人たちの合唱活動に活気を呼ぶこととなった。少女合唱団の芸術的側面も、それらの音楽から重要なインスピレーションやアイデアを得たが、合唱活動の教育的意図からは十分に伝わって来なかった。

ハノーバー少女合唱団は創立当初から当時聖歌隊に求められていた形式的な要求よりも芸術性の発展に重点を置いた。この中で少女合唱団と女声合唱団との間には、はっきりとした相違点がないこと、また幅広いレパートリーや変化に跳んだ柔軟性のある音色についても同様であることが分かった。いずれにしても少女の声は、少年の声が大人に変わる時の変声期のように突然変わるようなことはない。音域や声の大きさ、声質など微妙に変わっていくが、その変化はゆるやかであり、比較的小さい。女の子は多くの場合変声期の間も歌い続け、ある期間確かなヴォイス・トレーナーが、時折アドバイスを与えていけば良い。

芸術的に完成度の高い少女合唱を目指し、ある一定の年齢に達した者をメンバーからはずすこともないことから、このような合唱団には少女から若い女性までのメンバーがおり、児童合唱団のように選曲や演奏に子供らしい想像性が求められるような制約はない。ハノーバー少女合唱団では、常にこのような方法を用いることによって音楽的な選択肢を広げるだけでなくいろいろな年齢の女子が一緒に歌い、互いに協力しあうことを大切に考えている。少女たちは自らが望む限り、学校卒業時から大学入学、就職時まで、メンバーでいることができる。従って、平均年齢もその時によって違うと同時に、全体の歌のトーンも微妙に変化する。

ある時は高音がひき立ち若々しい印象を与え、またある時には若い女声合唱団を思わせる。作曲家やその時代には、それぞれその様式や内容、音楽の精神的な背景によって透明感や器楽的な音、より暖かみのある深みのある音等、求めているものも異なるため、レパートリーの選択にも影響を及ぼすこととなる。だが、ヴォイス・トレーナーにとっての最大の課題は、音楽を通していかに声を生かし、訓練することによって、調和し、独特の音色を引き出すことができるかということにある。

専門家にとって合唱、特に年少の歌い手の声のトレーニングが合唱教育の最も重要な点であることは、当然であるが、時間もかかり合唱の音楽活動全般にかかわるものである。ところが実際には、合唱の芸術性を満たすという意味ではあまり注目されていないことや十分な評価が得られていない場合もある。弦や管楽器の奏者がなめらかな、独特の、「美しい」音色を出すために絶ゆまない努力をすることと同じように、ハノーバー少女合唱団のヴォイス・トレーナーはつややかで含みのある音を作り上げ、芸術としての特徴を演出し、表現している。

これは各リハーサルでもかなり時間のかかる声のトレーニングが小人数のグループや個人の練習が確立された時に初めて成り立つものであり、それが段階を追ってソロで歌うもう少し年長者のセミ・プロ的なレッスンへと発展していく。このようなトレーニングの積み重ねから少女たちは抑揚のある表現力豊かな歌い手となっていく。そしてハノーバー少女合唱団の多くがその後、声楽の勉強に進んでいることも自然なのであろう。

音楽教育も同様に密度の濃いものであり、常に歌の訓練と平行して行なわれる。ここでもまた音楽会などで観客が体験する芸術的な演奏ぶりは、一見自然で天性からくるもののように見受けられるが、実は努力と日々の鍛練の結果である。

安定した基盤づくりのため、そして少女たちに洗練された合唱の歌唱法や難解な歌詞の解釈を紹介していくという教育目的達成のために、ハノーバー少女合唱団では合唱と声楽を学ぶための学校を設立した。少女たちは9歳から、合唱演奏に必要な能力を学ぶため、それぞれの年齢や段階に合った教育を受けることができる。ここでの第一段階“声楽初歩”は8歳から9歳の少女を対象としており、原則として一年間のコースで15名以下の比較的小さいグループで構成されている。この間、週1時間のレッスンは基本的には学問的な概念をその年齢の子どもの行動や音楽知識に合うよう行なわれている。

ここでは遊びを通して声の使い方、声の音色、息つぎ、姿勢を体得することが優先する。レパートリーには簡単なカノン、民謡や遊び歌が含まれているが演奏を目的とする以前に、体操など身体を動かすことから直接体験し、体得していく。聴覚に関しても同様に意識的に順序立てて音節を歌ったり、「階名唱法」という手の合図を活用し、遊びを通してリズムやメロディーの部分に取り組むこととなる。

10歳になると団員になりたい少女達は入団試験を受け、声楽初歩を終了した者と共に“フォルクラス”(初級クラス)に入る。これが合唱団付属校の第2段階であり、グループの人数は科目によって異なるが、20名から30名の少女たちは週に2、3回合わせて2時間半のレッスンを受けている。合唱の声のトレーニングをグループ全体で行なう中で、歌の基本的技術も教わっている。簡単な2部もしくは3部合唱の作品やカノンは合唱団での将来に役立つこととなる。

さらに少女たちには、10名以下の小グループで聴覚のトレーニングや初歩的な音楽指導を受ける機会が与えられる。最優先事項は初見で歌うことの基礎となる音階の認識、イントネーションを操り、初歩的なリズム構成を認識することにある。歌うこと、そして音楽の道に入っていくこともこの段階における大切な要素である。

“フォルクラス”を終了すると“ナハヴークスコール”(ジュニアコーラス)へと進み、学校の第3段階では実際の聖歌に取り組むこととなる。例外もあるが、このメンバーの少女たちは11歳から14歳の間で、人数はおよそ35名から50名程である。

1975年に“ナハヴークスコール”が設立された背景には、少女合唱団が順調に成長してきたことと同時により芸術性の高いものが求められるようになったことが大きい。“フォルクラス”に在籍する11歳児を演奏会に出すことはあまり意味がなくなっていった。才能豊かな少女が増え続けているが、大きなコンサートや長旅には小さすぎるため、特色のある段階を中間に設けることが必要

となった。“ナハヴークスコール”は1975年以来、1回2時間の練習を週2回行なっている以外にも小人数のグループで声のトレーニングを続けている。その中には、楽曲の歌詞を勉強する初級、中級クラスがあり、将来に向けて素質を育てているが、部分的には演奏会のレパートリーにおよぶこともある。

学習の中でも大切な部分が小規模ながらも定期的に行なわれる独自のコンサート活動にある。これは、主として地域的なものであり、教会で歌ったり特別な行事や児童合唱団等で歌う場合が多い。“ナハヴークスコール”は、時に子ども特有の声が求められるような偉大な合唱作品(ブリテンの戦争レクイエムやJ.S.バッハのマタイ受難曲、マーラーの交響曲第3番、オルフのカルミナ・ブラナ)等で歌ってきた実績もある。

“ナハヴークスコール”で過ごす期間は定められてはいないが、定期的に行われる審査によって上達した少女たちは、声や音楽的発達によってコンサート活動のグループに加わることとなる。この移動は原則として13〜14才頃、幼かった少女に意識の変化や生活環境が大きく変わる時期に起こるが、コンサート活動に携わることなく“ナハヴークスコール”を去るものも例外ではない。

“合唱団と声楽学校”という名称には4段階から成る全体像が描かれている。上記の3段階は単に最終レベルへの予備軍ではなく、それぞれがその年齢に合ったカリキュラムの中で音楽的にも声楽的にも独立した役割を持つものである。このことからもコンサートにおける輝かしい演奏活動がこの合唱団の様々な目的の全てではないことを指摘したいと思う。

音楽の責任ある教育者としてルートヴィヒ・ルットやグトルン・シュレーフェルは、常に自らの仕事やその教育の本質的意図に理解を示してきた。合唱団内部のワークショップではソロの曲やデュエット、アンサンブルやオペラの短い場面を演奏し、披露することから個人の声の資質をのばしながらもソロ歌手としての過大な期待を持たせないよう努めている。

この場合、“音楽のための音楽教育”という言い回しが善意から出た音楽的意図以上の意味を持つことは明らかであり、好みなどに囚われることなく、楽譜が十分に理解され適切に解釈されている。ハノーバー少女合唱団出身の大勢の学生ばかりでなく、多くのアマチュア音楽家(少女たちの多くは楽器も演奏する)やコンサートを訪れるハノーバーの音楽界で活躍している人達は、この合唱団成功の生き証人である。

1984年に創立され、ドイツ北部で一躍有名となった“ハノーバーのヨハネス・ブラームス合唱団”は混声合唱団である。しかし、この合唱団がハノーバー少女合唱団と極めて親密な関係にあることは、そのソプラノやアルト部門がほとんどがハノーバー少女合唱団出身者であり、時にはある期間両方の合唱団で歌っていることからもよくわかる。

“ヨハネス・ブラームス合唱団”はハノーバー少女合唱団から成長した若き女性たちにとって自然の流れとしてつながって行く場であり、創立当初からの合唱団の特徴とも言える和音の音色はしばしば長い間に培われてきた歌い手としての経験から表われている。

今日のように誘惑が洪水のようにあふれている世の中で若い歌い手たちが自分の自由になる時間の大半を、それも何年にも渡って犠牲にしてまでも合唱を続けていることは喜ばしい驚きである。だが、逆にこのような形で音楽と関わるためにはどのような動機づけが背景にあるのかが問われる。

公立の学校で教えられている音楽は、子供たちにとって初めての音楽教育であり、音楽や楽器について教わる最初の機会であることが多い。このことからも動機づけの問題や、戦略的に興味や関心を抱くよう導くことができるかという客観的に研究する調査が広く行われている。

幸いにも、このような問題にハノーバー少女合唱団が遭遇することはほとんどない。合唱曲の内容に関する選曲は、いかに人数が多くても少女たちの好みによるものではない(むしろその曲の本質——特に現代音楽の場合——については練習やリハーサルを重ねて初めてわかる場合が多い)。練習は集中力や緊張感、コントラスト効果や斬新さ、認識を追い求めるものではない。従って、少女たちがバスで何時間もかけてコンサート会場に疲れきって降り立った直後や、時には適当な部屋も用意されていないようなことでは十分な抑揚のある声を求めることはできないであろう。だが意欲は失われることなく、当面の課題(目前にあるコンサート)にどう対処するか、そしてできる限りの演奏をしたいと強く願っている。

ハノーバー少女合唱団は音楽学校とは全く違った形で構成されているので、学校、特に音楽学校と比較することは不公平であるばかりでなくむしろ間違っているように思う。あえて比較すれば前者の自然な動機づけ、そして音楽学校の計画性のある教育というよく知られている違いが現われるであろう。また、過去40年以上に渡って作られてきたこの合唱団の高い実績が、同時に高水準な合唱作品の演奏をしたいという意欲から来るものであることがわかる。これらはすべて二人の指揮者の人格と芸術的指導力のもとで培われてきたものであり、直接的な動機づけをもたらせている。

ベネチア風オスペダリの合唱団やオーケストラは、音楽に対して自ら献身的に専念することから聴衆を前にその有名な演奏を披露してきたが、その指導者や指揮者が特に動機づけの調査をしなかった可能性もある。だが、今日ハノーバー少女合唱団やその他の合唱団、アンサンブル、青少年オーケストラ等の演奏に際して伺える、献身的に専念する姿勢は、まことに喜ばしいことである。

Sponsors of the Mädchenchor Hannover :
ハノーバー少女合唱団日本公演協賛会社

Deutscher Musikrat Bonn (Ministerium für Familie und Jungend)
ドイツ音楽評議会(ボン)

LUFTHANZA
ルフトハンザ・ドイツ航空会社

Land Niedersachen
ニーダーザクセン州

Kulturamt und Jungendpflegeamt der Stadt Hannover
ハノーバー市文化局及び青少年保護局

Sparda-Bank Hannover
ハノーバー・スパルダ銀行

Landeszentralbank Niedersachsen
ニーダーザクセン州立中央銀行

H. Bahlsens Keksfabrik
バールセン製菓会社

Thorofon-Schallplatten KG
トロフォンレコード会社

Frau Gisela Schröder
ギーズラ・シュレーダー夫人

'80.7月　ハノーバー市、夏季音楽演劇祭 ヘーレンハウゼン宮殿　ハノーバー少女合唱団とジョイント・コンサート

東京少年少女合唱隊メンバーリスト

A　Sop.I
川越　大 中1
角　悠介 小6
佐々木祐二 小5
渡部　一訓 小5
※座間　景子 中2
※松原　典子 中2
西條　美穂 中1
湯川　潮音 小6
水原可南子 小5
Sop.II
※古澤　里奈 中2
※藤澤　梨絵 中2
※岩田　宏子 中2
梅原　佑 中1
秋山　央子 小6
加藤　麻衣 小6
坂野　渚 小5
榎本　舞 小5
金チンジュ 小5
Alt.I
※小松奈菜子 中2
※市川　恵理 中2
早川まどか 中1
嶋崎　加名 小6
寺田千絵美 小6
金成　怜奈 小6
出射李佳子 小6
川越亜紀穂 小5
岩永　朝葉 小5
Alt.II
※浦邊　冬彦 中2
遠藤　泰生 小6
※佐藤由三子 中2
※山口さや子 中2
※福島　朋子 中2
斉藤　春佳 中1
林　麻衣子 小6
岡本　舞由 小6
田中　萌子 小6
小沼　章子 小6
永塚　優衣 小5

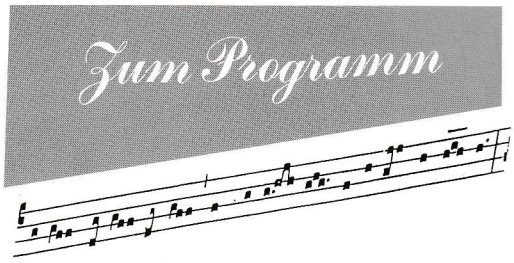
B　Sop.
堀江　和貴 小5
水谷　任佑 小4
佐藤　洋 小4
渡辺　淳一 小3
寺村　兵衛 小3
秋山　度 小2
大川　真奈 小5
小川いづみ 小3
大谷　誠子 小3
土肥映里世 小2
山本　紗衣 小2
Mez.
植木　みか 小3
橋本　佳奈 小3
藤田　奈津 小3
関　香代子 小3
出射見奈子 小3
小口今日子 小3
中村しず花 小3
Alt.
古田　彩乃 小5
岡田　歩 小4
立花　彬恵 小4
寺島　未紗 小4
船山　麻美 小4

C　桑木野賢志 小4
佐々木章成 小3
長坂　大地 小3
堀江　尚貴 小3
人見　勝久 小2
小沼　義明 小2
上野　達也 小2
大貫　真孝 小2
木曽田　晃 小2
浜野　遼 小2
桜井あゆみ 小4
金子裕未子 小3
林　敬子 小2
杉本　由希 小2
石塚　茉希 小2
関谷波瑠菜 小2
武田　尚子 小2
高橋　映 小2
遠藤ともみ 小1
丹下　承子 小1
渡辺　春菜 幼
永澤由芽子 幼
関谷　勇七 幼

シニア・コア
松本　浩美
花澤利枝子
貝塚真理子
高橋登美子
川津　礼子
横尾裕美子
遠藤あかね
篠田　飛鳥
渡辺　美幸
亀井千代絵
重松　京子
谷口　典子
川越美加里
嶋崎　由衣
金子　真由
川越名奈美
宮村　玲子
遠藤　博子
座間　里香
赤峰　有
永澤　詩子
野依美穂子
松本　達子
金子　仁子
佐久間　祥

ユース・コア
吉田　学
秦　雄司
榎木　淳人
池辺　朋
長谷川暁生
黒須　周
志田　雄啓
馬越　達也
佐久間　壮
秋山　竜也

※平成７年度修了生



曲目解説

今谷和徳

ハノーヴァー少女合唱団を迎えて行なわれる本日の演奏会では、第１部でとり上げらる分野に、いつもとは違った趣向がこらされている。第１部の前半では、いつものように古今の宗教作品が歌われるが、後半では、古代インドと古代ギリシャの文学をそれぞれ題材にした作品が取り上げられているのである。第２部では、いつものように楽しい世俗作品の数々が披露される。

〈第１部〉

「ラス・ウエルガスの写本」より

まず中世の時代に歌われていた多声宗教曲が演奏されるが、ここで取り上げられるのは、スペインのカスティーリャ地方のブルゴス近郊にあるラス・ウエルガス修道院に所蔵されている写本の中の２曲である。この写本は、1300年頃にこの修道院のために編纂され、1325年頃にさらに一部が加えられて、以来ずっとここに所蔵されてきたもので、計186曲の宗教曲が収められており、この時代の最も重要な宗教音楽の資料のひとつである。初めに歌われる《われら主を祝福せん Benedicamus Domino》は、ミサの最後に置かれた言葉に作曲された３声曲で、この写本中の同じ言葉に作曲された作品の12番目のものにあたる。《乙女の中の乙女なるマリア Maria, virgo virginum》は、聖母マリアのために書かれた２声のプローザ（セクエンツィアとも言う）である。プローザあるいはセクエンツィアというのは、中世の間数多く生み出された楽曲で、２節ずつ同じ音楽を歌いながら多節の歌詞を歌ってゆく形をとるものである。この曲では、各節の終わりの言葉がみな「めでたし、マリアよ」である点に特徴がある。

オケゲム：《ミサ・ロム・アルメ（武装した人）》より

ヨハンネス・オケゲム Johannes Ockeghem（1410頃－1497）は、15、16世紀のルネサンス時代の作曲家たちのうち、初期の頃に活躍した重要な人物の一人である。今の北フランスからベルギーにかけての地域にあたるフランドルの地方に生まれ、シャルル７世、ルイ11世、シャルル８世という、３代のフランス国王の宮廷音楽家として活躍し、ミサ曲やモテトゥスなどの宗教曲と、フランス語で歌われる多声シャンソンを残した。中でもミサ曲の分野は重要で、名高い《レクイエム》も含めると全部で11曲も現存している。この《ミサ・ロム・アルメ Missa L'homme armé》は、15世紀後半に広く歌われていた、世俗的な内容のフランス語の歌《戦士 L'homme armé》の旋律をもとにして書かれた４声のミサ曲である。ミサ曲全体は、もとの歌の旋律をテノール声部に定旋律として置き、他の３声部がそのまわりを装飾するように歌ってゆく形で作曲されている。なお、ここでは全曲のうちの最初の２つの章、〈キリエ〉と〈グローリア〉のみが歌われる。

ホルスト：《アヴェ・マリア》

グスターヴ・ホルスト Gustav Holst（1874－1934）は、スカンディナヴィア系のイギリス人作曲家で、19世紀末から20世紀初頭にかけてのイギリスにおける注目すべき音楽家の一人だが、作曲家としてだけでなく、教育者としても大きな役割を果たした。ホルストの作品といえば、オーケストラのための組曲《惑星》がとても有名だが、実は彼の創作活動の中心は合唱音楽にあった。この《アヴェ・マリア Ave Maria》は、1900年に作曲された女声８部合唱で、ホルストの初期の代表作のひとつである。歌詞は、聖母マリアをたたえた名高いアンティフォナによっている。

ラインベルガー：《御身が住居はいかに愛すべきところなるか》

ヨーゼフ・ラインベルガー Joseph Rheinberger（1839－1901）は、南ドイツの中心地ミュンヘンで活躍した、19世紀後半のドイツの作曲家で、ミュンヘン合唱協会の指揮者、ミュンヘン音楽院教授などを歴任し、1877年以後はバイエルン王国の宮廷楽長を務めた。作曲家として、当時の様々なジャンルを手がけているが、中でも、ミサ曲をはじめとする宗教声楽曲の分野は重要である。この《御身が住居はいかに愛すべきところなるか Wie lieblich sind deine Wohnungen》は、旧約聖書の中の詩篇83（プロテスタントでは84）のドイツ語訳に作曲したもので、ピアノまたはハープの伴奏で歌われる女声４部合唱である。

ホルスト：《リグ・ヴェーダからの合唱賛歌》

ホルストの合唱作品のうちでも、とくに興味深いもののひとつに、この《リグ・ヴェーダからの合唱賛歌 Choral Hymns from the Rig Veda》があるが、これは、古代インドに住み着いたアーリヤ人が、神々への賛歌と祭式をまとめた聖典であるヴェーダ集の中の『リグ・ヴェーダ』から、いくつかの賛歌をとり出して作曲したものである。歌詞は、ホルスト自身がサンスクリット語から英語に訳したもので、全曲は４群からなっている。ここで歌われるのは、第３群にあたる４つの女声合唱曲で、1910年に作曲された。ピアノまたはハープの伴奏で歌われる４部合唱である。

エベン：《ギリシャ語辞典》

ペトル・エベン Petr Eben（1929－）は、20世紀を代表するチェコの作曲家のひとりで、プラハ音楽アカデミーで学び、プラハ大学で教えるかたわら、作曲家、ピアニストとして活躍している。若い頃から古代の叙事詩に興味をもっていたエベンは、ある時、古代ギリシャの大詩人ホメーロスの作と伝えられる叙事詩『イーリアス』の朗読会と関わりをもち、その夕べで演奏するためにこの《ギリシャ語辞典 Dizionario Grego》を作曲した。ハープの伴奏で歌われる女声合唱曲として書かれたこの曲は、９曲から構成されているが、それぞれ、１つないし３つのギリシャ語の単語が歌われるだけである。つまりエベンは、これらの単語を歌わせることによって、『イーリアス』の中で展開される、名高いトロイア戦争をめぐる物語の主要なテーマを表現しようとしたのである。

〈第2部〉

バルトーク：《4つのハンガリー民謡》より；《27の合唱曲》より

ベーラ・バルトーク Béla Bartók(1881－1945)は、コダーイとともに、20世紀のハンガリーにおける最も重要な作曲家のひとりである。バルトークが、ハンガリーの民俗音楽を綿密に研究し、それをヨーロッパの伝統的な音楽と見事に融合させたことはよく知られているが、彼はそればかりでなく、ルーマニアやスロヴァキアの民俗音楽をも積極的にとり入れて、新しい作品を作りあげていった。ここではまず、1930年に作曲され、1932年に出版された無伴奏混声合唱曲集《4つのハンガリー民謡 Négy régi Magyer népdalok》の中から2曲が、続いて、ハンガリーに伝わる詩に作曲された無伴奏の児童合唱および女声合唱の曲を集めた、8巻からなる《27の合唱曲 Kórusmüvei》の中の、1935年に書かれ、1937年に出版された、女声合唱用の第8巻からの曲が、それぞれ歌われる。

イェネイ：《小鳥のおさそい》

小鳥のおさそいはゾルダン・コーダイ生誕百年を記念し、1982年にシャンドール・ヴェレシュの同タイトルの詩に作曲した女声または児童合唱用の作品です。

テキストには、ハンガリー語特有の擬声音の言葉が多く使われており、これらの言葉は、反復が基礎をなすこの楽曲の音響と構成に強い影響を与えています。反復や模倣のみならず、後続声部が8分音符後から追いかける4声のカノンであることが特徴です。曲の音の群は、コダーイが大変に好んだ"heptatonia secunda"(ヘプタトニア・セクンダ)という施法の様々な断片から成り立っています。"heptatonia secunda"とは、"音響的音階"と呼ばれる、リィディアの4度とミクソリディアの7度が含まれる施法です。

Zoltán Jeney　　Butapest Sep, 7,1994

(L.S.O.T.シニア・コア　第7回コンサートプログラムより転載)

ブラームス：《12の歌曲とロマンス》より

ヨハネス・ブラームス Johannes Brahms(1833－1897)は、いうまでもなく、19世紀ドイツの最も重要な作曲家のひとりである。交響曲や室内楽曲、あるいはピアノ曲や歌曲の大家として知られているばかりでなく、合唱曲の分野においても重要な足跡を残したことは周知の事実であろう。ここで歌われるのは、ブラームスが、生地のハンブルクで1859年に自ら設立した女声合唱団のために、1859年から翌年にかけて書いた曲の中から、のちの1866年にまとめて出版した《12の歌曲とロマンス Zwölf Lieder und Romanzen》のうちの4曲である。いずれも無伴奏女声4部合唱で、最初の曲はアイヒェンドルフの詩、次の曲はシャミッソーの詩、最後の2曲はハイゼの詩によっている。

R.シュトラウス：《解放》；《万霊節》

リヒアルト・シュトラウス Richard Strauss(1864－1949)も、いうまでもなく、19世紀末から20世紀前半にかけてのドイツにおける最も重要な作曲家のひとりである。シュトラウスの創作活動は様々な分野に及んでいるが、中でも重要なのは、オペラ、交響詩、そして歌曲という3つの分野である。オペラは20世紀にはいってから、交響詩は19世紀の終わりに集中的に作曲されたが、歌曲は、生涯を通じて手がけられた分野だった。ここではそうした歌曲の中の2曲がとりあげられている。《解放 Befreit》作品39の4は、1898年に作曲された《5つの歌 Fünf Lieder》の中の第4曲で、デーメルの詩によっている。《万霊節 Allerseelen》作品10の8は、1885年に書かれた《8つの歌 Acht Lieder》の中の第8曲で、ギルムの詩によっているが、シュトラウスの歌曲の中でもとくによく知られた名曲である。

ケルペン：《4つのドイツ民謡》

アルフレート・ケルペン Alfred Koerppen(1926－)は、ヴィースバーデン生まれの現代のドイツの作曲家。フランクフルトの音楽学校で学び、その後同地で活躍、1948年以後はハノーヴァーで作曲と音楽理論を教えている。その大部分は合唱曲で、この《4つのドイツ民謡 Vier deutsche Volkslieder》は、ピアノ伴奏付きの女声合唱曲である。

ノーラ：《ガリアルダを習いたいのはどなたかな》

ジョヴァンニ・ドメニコ・デル・ジョヴァネ・ダ・ノーラ Giovanni Domenico del Giovane da Nola(1510/20－1592)は、16世紀イタリアの作曲家のひとり。ナポリのサンティッシマ・アヌンツィアータ教会の楽長として活躍しながら、数多くの作品を書いたが、ラテン語の宗教曲も作曲しているものの、彼の得意とした分野はイタリア語による多声世俗歌曲であった。とくにナポリ風ヴィラネスカと呼ばれる、親しみやすい歌の数々は、イタリア中で愛好された。この《ガリアルダを習いたいのはどなたかな Chi la gagliarda》は、1541年に出版されたヴィラネスカ集に含まれる、典型的な3声のヴィラネスカである。

クレメンス・ノン・パパ：
《私は別れを告げる》；《ふたりの幼友だちが仲良く》

ヤコブ・クレメンス・ノン・パパ Jocab Clemens non Papa (1510/15頃－1555/56)は、ルネサンス時代のヨーロッパ音楽をリードした、フランス・フランドル楽派の作曲家たちのうちのひとりで、ブルッヘ(ブリュージュ)、スヘルトヘンボス、イーペルなど、フランドルの諸都市で活躍し、ミサ曲やモテトゥスなどのラテン語の宗教曲をはじめ、フラマン語(オランダ語の一種)で歌われる3声の『小詩篇歌集』や、フランス語とフラマン語によるシャンソンを残した。ここで歌われる2曲は、いずれも1556年に出版された前述の『小詩篇歌集』に含まれる3声曲だが、ここでは、原曲のフラマン語ではなく、ドイツ語の訳詞で歌われる。

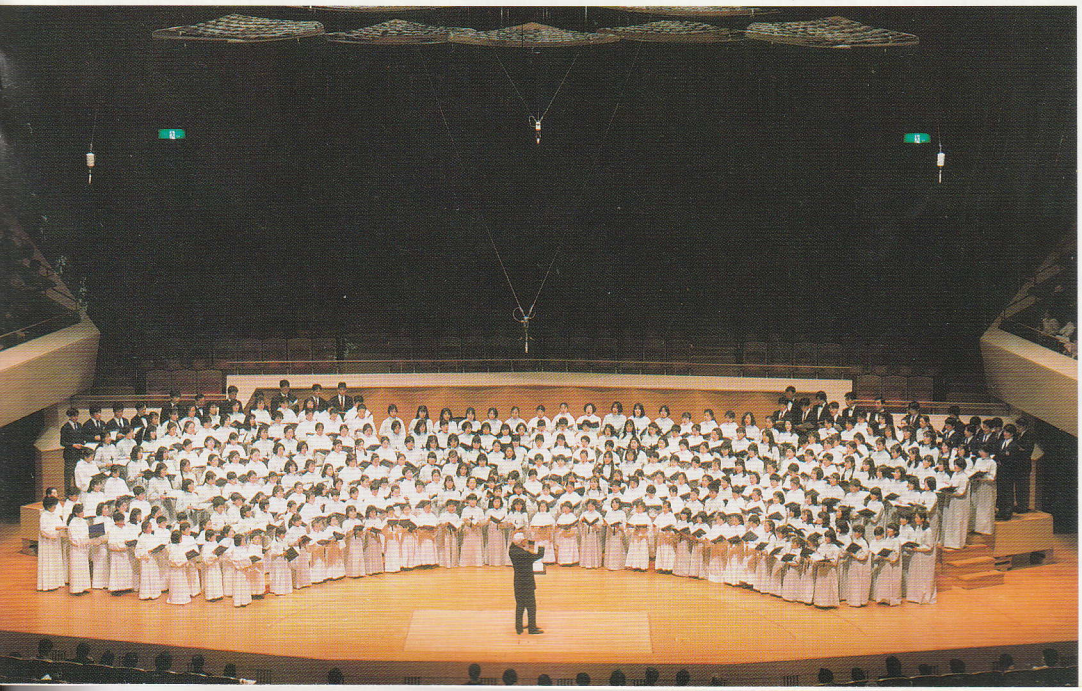
ルット：《アヒルとカンガルー》

ヘルヴィッヒ・ルット Herwig Rutt(1958－)は現代の若手作曲家のひとりで、ここで歌われる《アヒルとカンガルー The Duck and the Kangaroo》は、ハノーヴァー少女合唱団の委嘱により作曲された、ピアノ伴奏付きの女声合唱曲である。イギリスの作家エドワード・リアー作の楽しい動物物語に曲を付けたもので、ジャズ要素をとり入れている。

上・'93.12月 アッシジ降誕祭聖フランシスコ修道院バジリカ　下・'92.3月 40周年記念III　英国イートン校聖歌隊を迎えて　東京芸術劇場

'84.8月 巡礼者への接見日、モテトゥス献歌後教皇さまと　ローマ・サン・ピエトロ広場

上・'91.9月 ジャパンフェスティバルUK. ロイヤルビクトリア病院慰問　下・'91.4月 40周年記念Ⅰ 小田原少年少女合唱隊を迎えて　サントリーホール



'88.8月 香港・スタンレイ海岸

'85.8月 韓国・KBS児童合唱団と合同コンサート

'90.8月 ドイツ・シャウムブルグ児童合唱団と交流会後

'90.8月 フインランドSYMPAATTI フィナーレ・コンサート

'91.7月 米国・メーン州聖ペトロ・ポール教会前

'80.7月 ドイツ・ハノーバー市長舎前

'89.7月 ボリショイオペラ日本公演ボリス・ゴトゥノフ

1951年 7月 「東京少年合唱隊」誕生(30名)

1952年 4月 第1回定期演奏会(YMCA)

1954年 10月 スタジオが新大久保に新築される
12月 「東京少女合唱隊」誕生(30名)

1980年 3月 ハノーバー少女合唱団を迎えて第29回定期演奏会(虎ノ門ホール)
7～ 第8回海外演奏旅行 西ドイツ・オーストリア
8月 ハノーバー少女合唱団と共にヘーレンハウゼン音楽祭参加

1981年 6月 創立30周年記念特別演奏会Ⅰ(新宿文化センター)
〃 第11回日本童謡賞特別賞受賞(長谷川冴子)
9月 ミラノ・スカラ座日本公演 プッチーニ「ラ・ボエーム」
11月 創立30周年記念特別演奏会Ⅱ(東京カテドラル聖マリア大聖堂)

1982年 4月 L.S.O.T.ユース・コア誕生
7月 少年少女合唱フェスティバル出演

1983年 8月 第9回海外演奏旅行 韓国
9月 創設者ポーロ・アヌイ神父逝去

1984年 4月 R.F.デ・ブルゴス指揮 読売交響楽団定期 マーラー「交響曲第3番」
8月 第10回海外演奏旅行 イタリア・イギリス 聖堂コンサート
11月 故ポーロ・アヌイ神父一周忌追悼音楽ミサ(東京カテドラル聖マリア大聖堂)

1985年 7月 宝塚国際室内合唱コンクール女声部門銀賞・総合第3位(シニア・コア)
8月 第11回海外演奏旅行 韓国
10月 二期会オペラ ベルク「ヴォツェック」

1986年 1月 ハンガリー・コダーイ国際合唱コンクール第2位入賞
8月 NHKテレビ「こどもフェスティバル」
10月 「クラウス・フーバーの世界」
11月 全日本合唱コンクール初参加 金賞受賞(シニア・コア)

1987年 1月 創立35周年記念特別演奏会(サントリーホール)
3～ 第12回海外演奏旅行 ハンガリー・フランス
4月 ブタペスト春の音楽祭参加
8月 日本合唱指揮者協会主催 故清水脩 追悼演奏会(新宿文化センター)
9月 ブタペスト少年少女合唱団を迎えて 第36回定期演奏会(学習院正堂)
11月 ニッセイ児童文化振興財団主催モーツァルト「魔笛」(日生劇場)
〃 全日本合唱コンクール参加 金賞受賞(シニア・コア)

1988年 7月 第13回海外演奏旅行 香港国際児童合唱祭参加
〃 パリ・オペラ座少年合唱団を迎えて 第37回定期演奏会(東京カテドラル聖マリア大聖堂)
9月 第1回シニア・コア・コンサート(カザルスホール)
11月 全日本合唱コンクール参加 3年連続金賞受賞(シニア・コア)
12月 B.クロブチャール指揮 東京フィルハーモニー交響楽団定期オルフ「カルミナ・ブラーナ」(東京文化会館)

1989年 1月 都民劇場主催 団伊久磨「夕鶴」(新宿文化センター)
2月 第14回海外演奏旅行 フランス ナント国際合唱祭参加
7月 第15回海外演奏旅行 フランス革命 200年祭 World Little Singers 参加
〃 ボリショイ・オペラ日本公演「ボリス・ゴドゥノフ」(NHKホール、神奈川県民ホール)
〃 今村能指揮 新交響楽団定期 細川俊夫「ヒロシマ・レクイエム」(サントリーホール)
9月 小林研一郎指揮 日本フィルハーモニー交響楽団定期 マーラー「交響曲第3番」(サントリーホール)
〃 小泉和裕指揮 東京交響楽団定期 ショスタコービッチ「森の歌」(ゆうぽうと)
12月 第38回定期演奏会クリスマス・コンサート(津田ホール)

1990年 1月 E.P.サロネン指揮 NHK交響楽団定期 マーラー「交響曲第3番」(NHKホール)
6月 テルツ少年合唱団演奏会出演 ワールド・ハーモニー '90 日本公演
〃 第16回海外演奏旅行 香港ワールド・ハーモニー '90 アジア公演
〃 EBU主催国際合唱コンクール'90 "Let Peoples Sing"児童合唱部門第1位
8月 第17回海外演奏旅行 フィンランド ISME、SYMPAATTI、IFCM参加
〃 第18回海外演奏旅行 ドイツ・ベルギー ワールド・ハーモニー '90ヨーロッパ公演
〃 NTV「24時間テレビ 愛は地球を救う」(13回目)
11月 G.ベルティーニ指揮 ケルン放送交響楽団 マーラー・チクルス「交響曲第3番」(サントリーホール)

1991年 4月 小田原少年少女合唱隊を迎えて 創立40周年記念特別演奏会Ⅰ(サントリーホール)
〃 ハンガリー親善合唱演奏会(東京芸術劇場)
〃 サントリーホール5周年記念 演奏会形式オペラ「オテロ」G.クーン指揮
5月 サボー・ミクローシュ教授による合唱公開講座参加(東京芸術劇場大会議室)
7月 タピオラ少年少女合唱団賛助出演(人見記念講堂)
〃 第7回「東京の夏」音楽祭ー明治の洋楽ー(奏楽堂)
〃 第19回海外演奏旅行「アメリカ」アルカディー音楽祭参加
〃 NTV「24時間テレビ 愛は地球を救う」(14回目)
8月 東芝EMI 「天使の祭典」CDレコーディング(福島市音楽堂)
〃 ポリドール小学校音楽教材用CDレコーディング
〃 帰国子女のためのビデオ録画(東京学芸大学)
9月 第20回海外演奏旅行「英国」ジャパンフェスティバル '91参加
〃 ワンワールド・ワンピープル出演(東京ベイNKホール)
〃 創立40周年記念特別演奏会Ⅱ 第4回シニア・コア・コンサート(カザルスホール)
10月 NHK主催 日独共同制作 モーツァルト「魔笛」(NHKホール)
11月 ニッセイ児童文化振興財団主催モーツァルト「魔笛」(日生劇場)
〃 G.ベルティーニ指揮 ケルン放送交響楽団 マーラー・チクルス「交響曲第8番」(サントリーホール)
12月 二期会オペラ プッチーニ「トスカ」(東京文化会館)
〃 クリスマス・オルガン・コンサート(サントリーホール)
〃 クリスマス・コンサート(サントリーホール)
〃 クリスマス・キャロリング(赤坂プリンスホテル)9回目

1992年 1月 第2回「愛の泉」チャリティーコンサート(サントリーホール)
〃 全日空ハローニューイヤーコンサート(サントリーホール)
3月 創立40周年記念特別演奏会Ⅲ 英国イートン校聖歌隊を迎えて(東京芸術劇場)
〃 サントリーホール・オペラ・コンサート'92 ヴェルディ「マクベス」
〃 佐渡裕指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団定期 マーラー「交響曲第3番」(オーチャードホール、東京文化会館)
〃 イートン校聖歌隊と皇太子殿下表敬訪問 東宮御所
4月 NHKテレビ 「母と子供の絵本」録音
〃 高関健指揮 日本フィルハーモニー交響楽団 オルフ「カルミナ・ブラーナ」(東京芸術劇場)

Geschichte

5月　二期会オペラ プッチーニ「ラ・ボエーム」(東京文化会館)
6月　茨城県演奏旅行 主催：筑西広域市町村圏事務組合、筑西ふるさと市町村圏音楽会実行委員会
〃　NHKみんなのうた「太陽のこどもたち」録音
〃　秋山和慶指揮 東京交響楽団 ブリテン「戦争レクイエム」(サントリーホール)
8月　ヴォックス・アウレア少年少女合唱団とジョイント・コンサート(リリアホール)
〃　長野演奏旅行 南佐久郡地区音楽鑑賞教室 主催：長野県教育委員会
9月　第5回シニア・コア・コンサート(カザルスホール)
〃　東京芸術大学オペラ プッチーニ「ラ・ボエーム」(メルパルク)
10月　一関演奏旅行 主催：㈱佐々木組創立150周年特別企画
〃　サントリーホール開場記念日6周年特別コンサート オルフ「カルミナ・ブラーナ」 G.クーン指揮
11月　Z.コシュラー指揮 読売交響楽団創立30周年特別演奏会 マーラー「交響曲第8番」(サントリーホール、東京芸術劇場)
12月　サントリーホール・クリスマスコンサート
〃　クリスマスイブ・クラシックコンサート(新宿文化センター)

1993年
2月　大野和士指揮 東京フィルハーモニー交響楽団定期 ブリテン「戦争レクイエム」(オーチャードホール)
3月　サントリーホール・オペラ・コンサートシリーズ'93 プッチーニ「ラ・ボエーム」 G.クーン指揮
4月　第42回定期演奏会ー春にうたうー(新宿文化センター)
〃　映画「わが愛の譜ー滝廉太郎ー」録音
5月　メトロポリタン・オペラ日本公演 ドニゼッティ「愛の妙薬」、ヴェルディ「仮面舞踏会」(東京文化会館、NHKホール、神奈川県民ホール)
7月　大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第9回 ウェッバー「レクイエム」
8月　東芝EMI「実践合唱名曲大系」CDー中世・ルネサンスの宗教曲、現代合唱曲ーレコーディング(秋川市キララホール)
〃　長野演奏旅行 南佐久地区音楽鑑賞教室 主催：長野県教育委員会
〃　M.E.ツェンチッチ リサイタル賛助出演(浜離宮朝日ホール)
9月　第6回シニア・コア・コンサート(カザルスホール)
10月　第16回丘の上コンサート(春日部福音自由教会)
11月　キーロフ・オペラ日本公演 チャイコフスキー「スペードの女王」、ムソルグスキー「ボリス・ゴドゥノフ」(NHKホール、神奈川県民ホール)
12月　クリスマス・コンサート 横浜市文化振興財団主催(フィリアホール)
〃　カザルスホールのクリスマス
〃　第21回海外演奏旅行 イタリア、フランス

1994年
1月　プエリ・カントレス第26回世界大会参加
〃　新年のミサ(サン・ピエトロ大聖堂)
〃　第43回定期演奏会 ー 海外公演帰国記念ー(サントリーホール)
2月　第2回秋川市青少年音楽の祭典特別出演(キララホール)
〃　東京フィルハーモニー交響楽団第7回オペラコンチェルタンテシリーズプッチーニ「修道女アンジェリカ」(オーチャードホール)
3月　新宿文化センター 開館15周年記念演奏会 マーラー「交響曲第8番」
〃　小林研一郎指揮 東京交響楽団定期 マーラー「交響曲第3番」
〃　大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第13回 バーンスタイン「カディッシュ」
〃　長谷川なつよリサイタルー喜寿にうたうー 応援出演(浜離宮朝日ホール)
5月　手をつなごうコンサート'94 コペンハーゲン少年合唱団を迎えて(東京芸術劇場)
〃　日本フィルハーモニー交響楽団特別演奏会 マーラー「交響曲第8番」(NHKホール)
8月　手をつなごうコンサート'94 英国・カンタムス少女合唱団を迎えて(カザルスホール)
9月　ファミン30・愛のフェスティバル・チャリティーコンサート(ゆうぽうと)
〃　第7回シニア・コア・コンサート(カザルスホール)
〃　ウィーン国立歌劇場 日本公演 ムソルグスキー「ボリス・ゴドゥノフ」(NHKホール)
10月　一関演奏旅行 主催：㈱佐々木組
11月　東京芸術大学定期 ブリテン「戦争レクイエム」(東京芸術劇場)
12月　NTVクリスマス・コンサート(新宿文化センター)
〃　第26回アサヒビール・ロビーコンサート(アサヒビール本社)
〃　牧阿佐美バレエ団公演「くるみ割り人形」(メルパルク)20回目

1995年
2月　大野和士指揮 東京フィルハーモニー交響楽団定期 ブリテン「春の交響曲」(オーチャードホール)
〃　二期会オペラ プッチーニ三部作「修道女アンジェリカ」(東京文化会館)
3月　BMGビクター「新・合唱講座」ーア・カペラの練習法ー録画(さいたま芸術劇場)
〃　第44回定期演奏会ー受難を歌うー(東京カテドラル聖マリア大聖堂)
4月　スプリング・ガラコンサート(東京文化会館)
5月　BMGビクター「新・合唱講座」ーア・カペラ合唱曲集ーレコーディング(さいたま芸術劇場・音楽ホール)
6月　手をつなごうコンサート'95 米国フェニックス少年合唱団を迎えて(ヴォーリズホール)
7月　ファミン30・愛のフェスティバル・チャリティーコンサート(日本青年館)
8月　大野和士指揮 東京都交響楽団戦後50年記念演奏会 ブリテン「戦争レクイエム」(サントリーホール)
9月　NHKーFM「第5回全国童謡・唱歌フェスティバル」公開録音(群馬県民会館)
〃　第二回なかのZEROホール・オペラシリーズ プッチーニ「ラ・ボエーム」
〃　大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第22回 オルフ「カルミナ・ブラーナ」(東京芸術劇場)
〃　第8回シニア・コア・コンサート(カザルスホール)
10月　十束尚宏指揮 東京シティ・フィル管弦楽団第100回記念定期 マーラー「交響曲第8番」(オーチャードホール)
11月　ポリドール小中学校音楽教材用CDレコーディング
〃　ポール・ボキューズ「30年連続ミシュラン三ツ星を祝うレセプション」
〃　小林研一郎指揮 ハンガリー交響楽団 マーラー「交響曲第3番」(サントリーホール)
12月　日本国政府主催「戦後50年を記念する集い」(国立劇場)
〃　オムロン・クリスマス・コンサート(オーチャードホール)
〃　第2回愛のチャペルコンサート(池の上キリスト教会)
〃　牧阿佐美バレエ団公演「くるみ割り人形」(なかのZEROホール、メルパルク)21回目

'84年　第10回海外演奏旅行

イタリア・
イギリス

20. Juli 1980, 20.30 Uhr (Galerie)

The Little Singers of Tokyo
Dirigenten: Shinichi Hasegawa, Saeko Hasegawa
Pianist / Organist: Hitoshi Nakamura

Mädchenchor Hannover
Dirigent: Ludwig Rutt
Sopran: Gudrun Schröfel, Orgel: Siegfried Strohbach
Mitglieder des Bach-Orchesters Hannover

Missa St. Aloysii — Michael Haydn (1737–1806)
für Chor, Solo, Streicher und Orgel
Kyrie – Gloria – Credo – Sanctus – Benedictus – Agnes Dei
Ave Maria — Gregorian Chant
Exultate Deo — Alessandro Scarlatti (1659–1725)

Missa Brevis in D op. 63 — Benjamin Britten (1913–1976)
Kyrie – Gloria – Sanctus – Benedictus – Agnus Dei
Aus „Stabat Mater": „Amen" — G.B. Pergolesi (1710–1736)

Pause

Drei Madrigale
Innsbruck, ich muß dich lassen — Heinrich Isaak (1450–1517)
Godi pur del ben sen felice — Claudio Monteverdi (1567–1643)
Ho, who comes here — Thomas Morley (1557–1603)

Drei Sätze aus dem Mörike-Chorliederbuch — Hugo Distler (1908–1942)
Kleine Gäste
Früh, wann die Hähne krähn
Tochte der Heide

Chorus Songs for Children of Northern Japan — Ro Ogura
Karasu (Crow)
Yukikonko (Snow! Snow!)
Owaiyare (A Lullaby)

Chorus Songs for Children of Tokyo — Yoshio Mamia
Zui-zui Zokkorobashi (Who broke the Cup?)
Kagome Kagome (This is sung by the children surrounding one „hoodman" who is the guess who is behind him)
O-tedama Uta (A song for plaing at dibs)
Firefly (Hotaru) — Ro Ogura

28

The Little Singers of Tokyo

genommen. Die Li
zerte in allen Teilen
und Schallplattenpro
berühmt. Der Chor ge
Singers: Pueri Cantores
Konzertreisen führten di
da, Italien, Korea, Australi
der Chor zur Zeit die Bund
ßend Österreich.

Saeko Hasegawa wurde 194
frühen Kindheit zunächst bei
dem Gründer und Chorleiter
Music Senior High School der
Gesang. Nach den Examina in Tk
Jahre das Clarke College in Iowa
Fächern Gesang und Dirigieren ab
cago City Music Contest und beim
Frau Hasegawa wurde nach ihrer Ru
tin ihres Vaters (1968), hielt u.a. im st
sehen Vorlesungen über Themen aus
ten und hat seit 1971 die Leitung des C
Tokyo" übernommen.

Italy and England / The Little Singers of Tokyo
1984 Summer

PROGRAM

I Mass
Ⅱ in Festis B.Mariae Virginis — Gregorian Chant
Mass for three voices — W.Byrd

II Sacred Music in the Middle Ages & Renaissance
Ave Maris stella — G.P.da Palestrina
O bone Jesu — G.P.da Palestrina
Oculus non vidit — O.di Lasso
Ave Maria — J.Arcadelt
Exultate Deo — A.Scarlatti

III Art Chorus Music
Pettites voix — F.Poulenc
La petit fille sage
Le chien perdu
En rentrant de l'école
Le petit garçon malade
Le Herrison
27 Két-tés háromszólamu kórus — B.Bartók
Ne láttalok volna
Bánat
Pannás táncdal

IV Japanese Music & Folk Song
Hotaru (Firefly) — R.Ogura
Nenyamonya (Lullaby) — R.Ogura
Ichimonme no Ichisuke-san (A counting song) — R.Ogura
Ta no Kusatori Uta — M.Mamiya
Etenraku (Japanese court song) — arr.N.Terashima
Italian Folk Songs
British Folk Songs

'80年　第８回海外演奏旅行　西ドイツ・オーストリア

ヨーロッパ公演
プログラム

TOURNÉE DES PETITS CHANTEURS DE TOKYO

VALLET
Mardi 14 février - 20 h 30
Salle du Cinéma "Le Cep"

ORVAULT
Mercredi 15 février - 21 h
Eglise Ste-Bernadette

THOUARÉ
Jeudi 16 février - 20 h
Salle du Pré-Poulain

DONGES
Vendredi 17 février - 21 h
Eglise Saint-Martin

Nantes - samedi 11 février 1989
Auditorium Berlioz - C.N.R. - 21 h

LES PETITS CHANTEURS DE TOKYO

sous la direction de : **Saeko HASEGAWA**

PEROTINUS MAGNUS (1165-1220) — Haec dies

G. DUFAY (1400-1474) — Magnificat

G.-P. da PALESTRINA (1525-1594) — Missa sine nomine

Entr'acte

F. POULENC (1899-1963) — **Petites Voix sur des poèmes de Madeleine Ley**
La petite
Le chien perdu
En rentrant de l'école
Le petit garçon malade
Le hérisson

J. IBERT (1890-1862) — **Deux chants de Carnaval**
Chant des Charlatans
Chant des vendeuses de pommes de pin

Y. MATSUDATH* — **Mobile perpétuel pour chœurs d'enfants**
Composé en 1987 pour les Petits Chanteurs de Tokyo

T. ICHIYANAGI* — **Conversation sous la pleine lune**
Extrait de "Grenouilles,"
Composé en 1987 pour les Petits Chanteurs de Tokyo

ANONYME — **Etenraku**
(Musique de cour)
Arrangement : N. TEHASHIMA

K. NOBUTOKI (1887-1965) — **Suite de Sara, "Arbres et fleurs d'Orient"**
(d'après la musique de Noh)
Azumayano (Kiosque du jardin)
Karasu (Les corbeaux)
Uranoto (Caprices de la fortune)

R. OGURA (1916-) — **Hotaru**
(Les vers luisants)

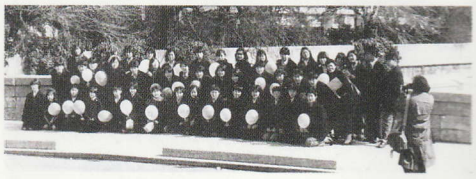
R. OGURA (1916-) — **Nenyamonya**
(Berceuse)

M. MAMIYA (1929-) — **Otedama**
(En jonglant)

ANONYME — **Hakone hachiri**
(Chant du Monde Hakone)
Arrangement : A. TAMBA

ANONYME — **Nawatobi-uta**
(Sauts à la corde)

*Une seule de ces pièces sera chantée - L'annonce en sera faite au début du concert.



LE CHŒUR DES PETITS CHANTEURS DE TOKYO

LE CHŒUR DES PETITS CHANTEURS DE TOKYO est composé de jeunes garçons et filles de 6 à 14 ans. Seuls les membres les plus âgés participent aux séries de concerts publics qu'ils donnent deux fois par an. Le reste du temps, en dehors des vacances, ils s'entraînent dans leur internat situé sur le lac Sagami où ils apprennent la musique en plus des enseignements scolaires. Ils y étudient le chant grégorien, les bases de la musique occidentale ainsi que la musique ancienne et baroque. En plus, ils apprennent les chants folkloriques du monde entier.
LES PETITS CHANTEURS DE TOKYO travaillent également avec un orchestre symphonique et l'Opéra de Tokyo, apparaissent à la télévision et participent à de nombreuses tournées à l'étranger. Ils ont notamment donné un concert à Notre-Dame de Paris en 1987.
En contrepartie, ils invitent souvent des chœurs étrangers à se joindre à eux et présentent ainsi des concerts mixtes.

Saeko HASEGAWA

Saeko HASEGAWA qui dirige actuellement le Chœur est la fille de Shinichi Hasegawa qui a fondé celui-ci en 1951 avec le père Paul Anouh. Dès 1955 LES PETITS CHANTEURS DE TOKYO furent rattachés aux Pueri Cantoris en en devenant la fédération japonaise. Saeko HASEGAWA ayant elle-même fait partie du chœur dans son enfance est diplômée de l'Ecole Supérieure de Musique de Tokyo et s'est perfectionnée aux Etats-Unis. Elle a reçu plusieurs distinctions en participant notamment au Concours du Conservatoire de Chicago et du Metropolitan. Elle fut l'assistante de son père pendant plusieurs années.

'88年　第14回海外演奏旅行　フランス

Repertoire for the five concerts will be taken from Programmes A and B

Programme A

Two Alleluias & Two Magnificats
Anonymous
Alleluya V Nativitas
(from the Worcester fragments)
Anonymous
Alleluya moduletur V Veni, mater gratie
(from the Worcester fragments)
John Dunstable (1390?-1453)
Magnificat
Guillaume Dufay (1400?-1474)
Magnificat

Madrigals from the Renaissance
Thomas Morley (1557?-1602)
Do you not know?
Though Philomena lost her love
Thomas Weelkes (1575-1623)
Late in my rush accounting
Come sirrah Jack ho

Mass
William Byrd (1543-1623)
Mass for three voices
Kyrie
Gloria
Credo
Sanctus - Benedictus
Agnus Dei

Japanese Contemporary Music
Toshi Ichiyanagi (1933-)
Two movements based on the series of poems, *Frogs*
Conversation: Under a Full Moon
4 or 5 Tadpoles

English Music from the 19th Century
Gustav Holst (1874-1934)
Eight Canons
If you love songs (Alcuin)
Lovely Venus (Codex Salmaianus)
The Fields of Sorrow (Ausonius)
David's Lament for Jonathan (Abelard)
O Strong of Heart (Boethius)

Japanese Contemporary Music
Yoriaki Matsudaira (1931-)
Five Folklores
Salorun-Limse (Crane Dancing Song - Hokkaido)
Warabi ori (No-dancing Song - Aomori)
Aikonashi uta (Work Song - Tokushima)
Ashikibu ichiban bushi (Song for Boat Race - Amami)
Shirabo bushi (Cropping Festival Song - Okinawa)

Programme B

English Music from the 20th Century
Benjamin Britten (1913-1976)
A ceremony of carols

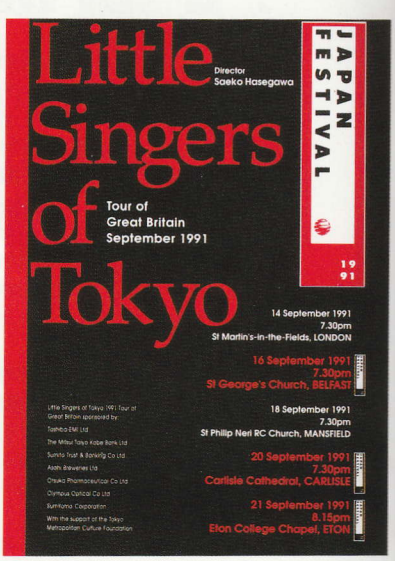
Motets from the Renaissance
William Byrd (c1524-1623)
Memento Salutis Auctor
Non nobis Domine

Eight Negro Spirituals
Arr J C Phillips
Mary had a baby
You got a right
Never said a mumbalin' word
This Train is bound for glory
Steal away to Jesus
Little David, play on yo' harp
Nobody knows de trouble I see, Lord
Dry bones

Japanese Traditional Music
Anonymous (c1100)
Etenraku (Japanese Court music)
Ro Ogura (1916-1990)
Hotaru (Firefly)
Akira Tanba (1931-)
Hakone Hachiri (Song of Mt Hakone)
Rentaro Taki (1879-1903)
Kojo no Tsuki (The moon above the Ruin of the Castle), arr S Izumi
Kosaku Yamada (1886-1965)
Akatombo (Red dragonfly) arr S Izumi

Little Beatles Sing in Beat
arr Chiharu Wakabayashi
Magical Mystery Tour
Norwegian Wood
Yesterday
Lucy in the Sky with Diamonds
Yellow Submarine

Japanese Contemporary Music
Yoriaki Matsuidaira (1931-)
Five Folklores
Salorun-Limse (Crane Dancing Song - Hokkaido)
Warabi ori (No-dancing Song - Aomori)
Aikonashi uta (Work Song - Tokushima)
Ashikibu ichiban bushi (Song for Boat Race - Amami)
Shirabo bushi (Cropping Festival Song - Okinawa)



'91年　第20回海外演奏旅行　イギリス

Hungary and France / The Little Singers of Tokyo
1987 Spring

PROGRAM

I Sacred Music

Alleluja	Gregorian Chant
Ave Maria	Gregorian Chant
Sanctus Benedictus	Gregorian Chant
Conditor Alme siderum	G.Dufay
Magnificat in the Eight Mode	G.Dufay
Agnus Dei	J.Ockeghem
Benedictus	J.des Prez
Crucifix	G.P.da Palestrina
Ave Regina Coelorum	G.P.da Palestrina
Natus est nobis	T.L.de Victoria
O Sacrum Convivium	T.L.de Victoria
Jubilate Deo	M.Praetorius
Lasst uns dem Herrn Lob singen	J.S.Bach
Ave Maria	W.A.Mozart
Kyrie	W.A.Mozart
Cantate Domino	P.E.Ruppel
Ave Verum Corpus	F.Poulenc
Gloria (Mass for three voices)	A.Caplet
Angyalok és pásztorok	Z.Kodály

II 20th Century Choral Music — F.Poulenc

Pettites Voix
- Le Petite Fille Sage
- Le Chien Perdu
- En Rentrant de L'école
- Le Petit Garçon Malade
- Le Hérrison

B.Bartók

27 KÓRUSMŰVEI RÓL
- Ne Láttalak Volna
- Bánat
- Párnás Tancdal
- Cipósütes
- Legénycsúfoló
- Estidal

Z.Kodály

III Japnese contemporary Music — Y.Matsudaira, T.Ichiyanagi

"Perpectual Mobile" for Little Singers
Two Movements Based on the Series of Poems "Frogs"
- Night Time Conversation Under A Full Moon
- Forty-five Tadpoles

IV Japanese Folk song — R.Ogura

Hotaru (Firefly)	H.Konoe
Chin Chin Chidori (Lullaby)	K.Yamada
Machiboke (Allegorical Song)	arr. H.Kobayashi
Kokiriko (Crooing song)	arr. A.Tamba
Hakone Hachiri (Song of Mt.Hakone)	M.Mamiya
Otedama (Juggling Song)	Anon
Nawatobi-Uta (Rope Skipping)	arr. H.Kobayashi
Tairyo Utaikomi (Fishermans Feasting Song)	arr. K.Aranaki
Etenraku (Japanese Court Song)	R.Ogura
Nenyamonya (Lullaby)	

'87年　第12回海外演奏旅行
ハンガリー・フランス

I. Sacred Music

Perotinus Magnus (1165-1120)	Organum Hec dies
Guillaume Dufay (1400-1474)	Magnificat VIII Toni
Johannes Ockeghem (1410-1497)	Missa sine nomine Kyrie Gloria Credo Sanctus Agnus Dei
G.-P.da Palestrina (1525-1574)	Missa sine nomine Kyrie Gloria
Francisco Guerrero (1528-1599)	Sanctissima Maria
T.L.de Victoria (1548-1611)	Natus est Nobis
Claudio Monteverdi (1567-1643)	Angelus ad Pastores ait
Camille Saint-Saëns (1835-1921)	Laudate Dominum
Zoltán Kodály (1882-1962)	Psaume CL
Francis Poulenc (1899-1963)	Ave Verm Corpus
Maurice Duruflé (1902-1986)	Tota pulchra es

II. Secular Music

Henri Tomasi (1901-1971)	Douze chants de l'ile de Corse Chanson Politique O Pescator dell'onda U Mercante in Fiera
Béla Bartók (1881-1945)	from 27 Kórusművei Cipósütes Ne hagyj itt Kánon Párnás táncdal
Einojuhani Rautavaara (1928-)	"Suite" de Lorca Canción de Jinete El grito La luna asoma Malagueña

III. Japanese Contemporary Music

Yoriaki Matsudaira (1932-)	Perpetual mobil for little singers (five movements)
Toshi Ichiyanagi (1933-)	"4 or 5 tadpoles" from the series of poem "Frogs" by Shinpei Kusano (1903-1989)

IV. Japanese Traditional Music

Anonym	Etenraku (court music)
Ro Ogura (1916-)	Ichimonme no Ichisuke-san (a counting song)
Akira Tamba (1932-)	Hakone Hachiri (song of Mt.Hakone)
Michio Mamiya (1924-)	Otedama uta (juggling song)
Yujiro Fukushima (1932-)	Song of Southern Islands Cheerful Girles

'90年　第18回海外演奏旅行　フィンランド

'90年　第19回海外演奏旅行　ドイツ・ベルギー

PROGRAM
PROGRAMM
PROGRAMMA
PROGRAMM

THE LITTLE SINGERS OF TOKYO

I. Sacred Music - Sakrale Musik - Sacrale muziek - Musique sacrée

Perotinus Magnus (1165-1220)	Organum haec dies
Giovanni Pierluigi da Palestrina (1525-1594)	Missa "Sine Nomine" : *Kyrie* *Gloria*
Claudio Monteverdi (1567-1643)	Agnus ad pastores ait
Maurice Duruflé (1902-1986)	Tota pulchra es

II. Secular Music - Weltliche Musik - Profane muziek - Musique profane

Jean Sibelius (1865-1957)	Finlandia
German Folk Song	Alle Vögel sind schon da
Heinrich Weiner (1809-1833)	Heidenröslein
Bela Bartok (1881-1945)	from 27 Korrusmüvei *Ciposütes* *Ne Hagyj itt* *Pamas tancdal*
Henri Tomasi (1901-1971)	Douze chants de l'île de Corse *Chanson Politique* *O Pescator dell'onda* *U Mercante in Fiera*
Francis Poulenc (1899-1963)	Petites Voix (Madeleine Lay) *La petite fille sage* *Le chien perdu* *En rentrant de l'école* *Le petit garçon malade* *Le hérisson*

II. Sacred Music - Sakrale Musik - Sacrale muziek - Musique sacrée

Johannes Ockeghem (1410-1497)	**Missa "sine nomine" :** *Kyrie* *Gloria* *Credo* *Sanctus* *Agnus Dei*
Intermission	
Perotinus Magnus (1165-1220)	Organum haec dies
Abbes Hildegard of Bingen (1098-1179)	O viridissima virga
Guillaume Dufay (1400-1474)	Magnificat VIII Tony
Francisco Guerrero (1528-1599)	Sanctissima Maria
Tomàs Luis de Victoria (1548-1611)	Natus est Nobis
Claudio Monteverdi (1567-1643)	Agnus ad pastores ait
Camille Saint-Saëns (1835-1921)	Laudate Dominum
Zoltan Kodaly (1882-1962)	Psalm 150
Francis Poulenc (1899-1963)	Ave Verum Corpus
Maurice Duruflé (1902-1986)	Tota pulchra es
G.-P. da Palestrina (1525-1574)	Gloria

III. Japanese Contemporary and Traditional Music
Japanische Zeitgenössische und Traditionelle Musik
Japanse hedendaagse en traditionele muziek
Musique japonaise contemporaine et traditionelle

Toshi Ichiyanagi (1933-)	"4 or 5 tadpoles" ("Frogs" - Shinpei Kusano (1903-1989))
Anonym	Etenraku
Ro Ogura (1916-)	Ichimonme no Ichisuke
Akira Tamba (19 -)	Hakone Hachiri
Michio Mamiya (1924-)	Otedama uta
Hideo Kobayashi (1931-)	Kokiriko
Yujiro Fukushima (1932-)	Song of Southern Islan *A Harvest* *Cheerful Girls*
Anonym	Nawatobi uta
Negro Spiritual	Nobody Knows

'93年～'94年　第21回海外演奏旅行
イタリア・フランス

Programme B

M. Perotinus (1165-1220)	Viderunt Omnes
G. Machaut (c. 1300-1377)	Inviolata genitrix
J. des Préz (c. 1440-1521)	Recordare, virgo Mater
F. Poulenc (1899-1963)	Litanies à la Vierge Noire
M. Duruflé (1902-1986)	Tota Pulchra es
	☆
Toshio Hosokawa (1955-)	Tenebrae (composed specially for L.S.O.T. in 1993)
	------- INTERVAL -------
F. Schoitt (1870-1958)	De Vives Voix Roi et dame de carreau Vétyver Pastourettes Enserrée dans le port La tour d'amour
D. Milhaud (1892-1974)	Deux Elégies Romaines
	☆
Y. Matsudaira (arr.) (1933-)	5 Folklores (composed specially for L.S.O.T in 1991) 1 Salorunn-Limuse (CraneDancing-Hokkaido) 2 Warabiori (Nob-dancing Song-Aomori) 3 Aikonashi uta (Work Song-Tokushima) 4 Ashikibu ichiban bushi (Song for Boat Race-Amami) 5 Shirabo bushi (Cropping Festival Song-Okinawa)

Programme A

G. P. da Palestrina (c. 1525-1594)	Missa Sine Nomine
	☆
O. Lassus (c. 1530-1594)	Cantiones Duarum Vocum Beatus vir Beatus homo Oculus non vidit Justus cor suum tradet
	☆
G. Machaut (c. 1300-1377)	Inviolata genitrix
J. des Préz (c. 1450-1521)	Recordare, virgo Mater
	☆
M. Perotinus (1165-1220)	Viderunt Omnes

——— INTERVAL ———

● G. Dufay (c. 1400-1474)	Nuper rosarum flores
	☆
● Toshio Hosokawa (1955-)	Tenebrae (composed specially for L.S.O.T. in 1993)
	☆
● Giacomo Fogliano (1473－1548)	Ave Maria
● C. Festa (c. 1480-1545)	Regina Caeli
● C. Monteverdi (1567-1643)	Ave Maria
	☆
● G. P. da Palestrina (c. 1525-1594)	Magnificat IV Toni

演奏会おめでとうございます。

長谷川冴子さんの指揮を初めてみたのは、長野で開かれた「アジアカンタート in 長野」での少年少女合唱団の指導だった。国内ばかりでなく、海外からの合唱団の参加もあったのだが、冴子さんは実に手際よく、会場に入ってくる子供たちにパートを聞いては、座る場所を指示したり、もっと楽しく歌おうと元気づけたり、練習にテンポがあって軽やかな英語が小気味よかったのを覚えている。

次は、私の団員から聞いたのだが、オーケストラとの練習で、指揮者が合唱団にもっと小さく歌うように要求したとき、オーケストラがピアノで演奏してないのだから、それにバランスを取っているんだと冴子さんが答えたという話だ。冴子さんらしい率直さだと思った。昨年、私の企画で、合唱指導のビデオを作らせて貰ったが、暖かで、純粋な指導で、母親のそれをみるようだった。

そんな冴子さんの音楽が、今日も、会場のみなさんを幸せにすることでしょう。

合唱指揮者
関屋晋

天使たちとの縁

もう6年も前になったが、会社のロビーでコンサートを開く話が持ち上がり、出演していただいたのが「合唱隊」とのつきあいの始まりだった。クリスマスの時期だったので、世界の様々なキャロルを歌ってもらった。控室での子供たちの元気の良さにいささか当てられていたが、さすがに演奏となるとしんみりしたもので、心にしみいると感じさせた。アンケートにも、「天使のような歌声で、涙がでて止まらなかった」というのもあった。けれども、歌いながら退出する場面があり、控え室に向かうエレベーターのなかで、その天使たちが、瞬時に大騒ぎのにぎやかな娘たちに変身することは、私だけが気づいていたことだった。

この演奏会が大成功だったおかげで、私どもの「アサヒビール・ロビーコンサート」も定着した。私事になるが、初代指揮者の長谷川新一先生に私の父が合唱指揮を習ったことがあるのを後で知った。縁とは不思議なものである。

アサヒビール企業文化部
加藤種男

呼びかける心、こたえる心

「モツレク」だの「知ら名」だのと、短縮して呼ぶことがあたりまえのように思われているこの時代に、「手をつなごうコンサート」という、この長たらしい名称は、省略することもできず、けれども、素朴でわかりやすく、しかも心のこもった呼び名です。きっと、もっとスマートな呼び方はないものかと、合唱隊の事務所では、関係者のみなさんが頭をひねられたのではないかと想像しますが、なかなかいい案が浮かばず、「いいわよ、これで、わかりやすくていいじゃない？」という冴子先生の一声できまったのではないかと、勝手に空想しています。

「手をつなごう」ということは、世界の少年少女の合唱団と手をつなごう、ということでもあり、日本の子供たち同士も手をつないで、共に声を合わせようということでもあるのでしょう。

完全に世界レヴェルに一線に並び、日本の少年少女合唱団の最先端で、範を示すような活動をしているL.S.O.T.の指導者が、それだけにとどまらず、日本の子供たちとも手をつなごうと呼びかけてくださることは、ほんとうにすてきで、うれしいことです。

全日本合唱連盟が毎年8月に行なっているジュニアコーラス・フェスティバルは、日本じゅうの少年少女合唱団が参加して行なわれる合唱祭です。そこで冴子先生が講師をしてくださるようになって、もう5年になります。たぶん合唱隊のいちばん忙しい時期だと思いますが、毎年きもちよくこの仕事を引き受けてくださるのは、「L.S.O.T. だけが うまくなればいいのではない」と冴子先生が考えていらっしゃるからだと思っています。そして、その講評カードには、いつも、やさしさときびしさ、音楽への愛、うたう者への思いやりなどが、心をこめて書かれているのです。子どものころから音楽的素養を育て、積み重ねていくことの大切さもですが、同学年だけのつながりしか持ち得ない学校教育の枠を一気に大きく越えて、小学生も中学生も、さらにシニアのお兄さんもお姉さんも、ともに音楽を楽しむことができるなんて、ほんとうにすばらしいことです。

児童合唱団の指揮者の肩には、それはそれは多くのたいへんなことがすべてかかっていて、いい演奏ができた時の喜びは、その重さの分だけ大きいのですが、L.S.O.T.は、そんな城を抜け出して、もっと大きく広く、日本じゅうに、世界じゅうに、呼びかけているんですね。

きょうは、ドイツの合唱団がその呼びかけにこたえ、美しい歌声をきかせてくれます。呼びかけ、応えるお互いの心をいつまでも大切にしたいものです。

全日本合唱連盟「ハーモニー」編集
伊集院恭子

1990年、東京少年少女合唱隊のグレゴリオ聖歌が、日本の歌が、そして民謡が、ドイツ、ベルギーの教会を揺るがせた。

「日本の子供が、こんな素晴らしいグレゴリオ聖歌を歌うのか！驚いた！」。そして現地の子供たちの歌は日本ではもう忘れかけられている「美しき自然」。そこには言葉では尽くせない何かが生まれた。

私は幸にもこの「ワールドハーモニー」を協賛した三菱広報委員会の担当者として、東京少年少女合唱隊と一緒に旅をし、演奏に惜しみない拍手を送り、聴衆の感動を肌に感ずることが出来た。ファンになってからもう5年余。創立45周年を迎えた合唱隊に心からの「おめでとう」を、そして新一先生、冴子先生に「よかったですね」を。そしてこれからもよい人間性に支えられたよい歌を歌い続けて欲しいとの願いを贈りたい。

三菱広報委員会
濱田康子

天使の微笑、その奥にあるもの

パリから汽車で一時間あまり東に行ったところに、歴代フランス王が戴冠したという有名なランス大聖堂がある。正面扉を飾る彫刻群のなかの、眼差しがやさしく、うなじから肩の線がやわらかい像は「微笑む天使」としてひときわ名高い。

たまたまランス大学人文学部で一年ほど研究生活をおくることになった私は、折りにふれてよく大聖堂を訪れた。壮麗なゴシック伽藍の周囲に観光客は絶えなかったものの、堂内にはいつも深い静寂が息づいていて、内省にふけるにはふさわしい場所だったからである。

―すると、どこからか聖歌が響いてくる。そら耳かもしれない。本物かもしれない。ランスにいる間にいったい幾たび、三十数年前の自分を回想したことだろうか。

はるかに聞こえてくるグレゴリオ聖歌の旋律やスターバトマーテルの響きに、私は自分の根底を揺さぶる熱いうねりを直覚していたのである。

「なんと幸せだった私の少年時代」―いま、そう断言することができる。合唱隊の透明な歌声とともによみがえる回想は限りなく遠く、そえゆえに甘い。なぜなら、私は小学校で苦しい日々を送っていたからだ。生意気な子供だった私を教師は憎み、級友はうとんじた。学校で孤立していた私が合唱隊の練習に打ち込んだのは、たぶんその反動だったのだろう。

合唱隊生活に辛さが無かったわけではない。だが演奏は一回一回が真剣勝負であり、宇宙にひろがっていく歌声のなかには、学校の退屈な勉強では決して得られないような、陶酔と歓喜と感動があった。

「お前の少年時代をつくってくれたのは合唱隊だ」―詩人だった父はよくそんなことを私に言った。その父も逝ってすでに二十年近くたち、私も父の死んだ年齢に一歩一歩近づいてきた。

芸術とは何だろうか。

芸術の専門家や愛好家はさまざまなことを語る。技術について、形式について、歴史について、創意について、多様な知識をくわしく語る。もちろん、「美」とは細かい技術の積み重ねから織り上げられるものだ。

だが、ランス大聖堂の「微笑む天使」の前で彫像の技術的特徴を知るだけで満足する観光客は、ついにはその微笑の奥にあるものを解することはできない。同じように、ゴシック建築の専門研究者さえも、みずからの膨大な知識のゆえにかえって、ランス大聖堂の秘められた「内奥」とは無縁に終わる可能性もないではない。

ひとり渇えた魂のみが、大聖堂に聖歌が流れるとき、奇跡のように、そのほんとうの「意味」を摑むことができるのである。

これからも、合唱隊が、たくさんの魂に消えがたい痕跡を残すよう、心から祈りたい。

少年第10期生
西垣　通（評論家）

この度は、ハノーバー少女合唱団が再び来日し、東京少年少女合唱隊と音楽で交流されるとうかがい、ドイツ・シュトゥットガルトより心からお祝いの言葉を送ると共に、合唱隊での私の思い出を少し述べさせて頂きます。

ハノーバーのルット先生とは、1988年に冴子先生がヨーロッパに来られた際、ドイツでお会いしております。その時はちょうどペーター・シュライヤー氏がソロと指揮をされる「ヨハネ受難曲」のソプラノ・ソロを当時の東ベルリンで歌うことになっており、シュトゥットガルトからハノーバー経由でベルリンまで、冴子先生と車でご一緒いたしました。

ルット先生のお宅では、ヨーロッパのいろいろな合唱団のレコードをかけて聞かせて下さったのですが、その時、先生がとてもおもしろい表現をされたのが心に残っています。先生はレコードを聞いて、それぞれ「ここの声は黄色いね」とか「今度のは青みがかった響きだ」とかおっしゃるのです。

ドイツへ来て以来、ドイツ人のピアニストと合わせたり、オペラ

等のアンサンブルけいこをしている時、日本で使い慣れていたような感覚的表現や比喩を直訳して話をすると伝わらないことが多く、やはりドイツ人は論理的なのだなあと強く思っていたので、ルット先生のおっしゃる事が、私にはあまりにもピンと来て逆にびっくりしました。

音そのものの“のび”“まろやかさ”“さわやかさ”“切れ”等を論理的に説明しようとするとなかなかうまくいかないものですが、ルット先生のように感覚的に表現されるとピタッとあてはまる―その根底は、共通した感覚があるということではないでしょうか。

当時ドイツで、外国人として仕事をする難しさを感じていた私は、何かとてもほっとした気がしたのを覚えております。ベルリンへ向かう車の中、久しぶりにお会いした冴子先生が目を輝かせながら、将来拡げていきたい合唱隊のレパートリーや、子供達がむずかしい曲に取り組んで、それができた時の顔のすばらしさをお話しして下さった事もなつかしい思い出です。

考えてみれば、あのかなり調子はずれだった私が、親にせがんで連れていってもらったのが東京少年少女合唱隊だったこと。入隊して初の発表会での「ハレルヤコーラス」の大合唱で味わった、背中がゾクゾクするような音楽体験。地方演奏旅行で「上等兵」だった私が毎晩の反省会で身の縮まる思いをした事。旅行中大さわぎしている私達に長谷川先生の一言、「君達は歌うためにここに来ているのですから、それをまず考えなさい。さあ今から本番まで無言です」…シーン。マタチッチ指揮N響定期のゲネプロで学校を休むことを親に反対され、とうとう出演できずくやしかったこと。(今では厳しかった親に感謝している)

6年生の変声期の頃にいろいろなパートで別な勉強をさせてもらったこと。冴子先生がアメリカから帰られて「新しい刺激」を与えられ、ますますおもしろくなって、しょっちゅう先生の後をついて歩いたこと。

そして私は芸大へ行き、結婚してドイツへ。運良くすばらしい人々に助けられ、シュトゥットガルトの国立歌劇場を始め、ヨーロッパ各地で仕事をすることができました。

子供が生まれ、今、また新たに自分の歌に取り組もうとしています。

ああやって歌い始めて、「私は歌が好き」「人と一緒に歌うのはこんなに楽しい事なのだ」という合唱隊で育まれた根っこをのばして30年。そんな心構えを教えてくれたのも合唱隊です。

“本物”を求め追い続けるのは、大変な時間と情熱のいることだと思います。こんな時代だからこそ、子供達に“本物”を示し、家庭でも学校でも得られない何かを与えつづけてあげて下さい。

皆にとって忘れることのできない公演となりますように、心よりお祈りしております。　　雪のシュトゥットガルトより。

少女第12期生
古嵜　靖子(声楽家)

少年よ。塾の合間に合唱隊へ行こう！

なぜかって？　塾は、いい学校に入るために大切だろうけど、合唱隊で“いい音”“いい音楽”と出会うことも、これから素敵な人生を送るために大切だからね！

本日お集まりのご父兄は、すでにその辺を、経験的に、また直観的によくご存じの方々かと思います。いろいろ高学歴のお上の不始末がやたらに多い、いかにも頼りなげな日本ではありますが、今日歌う隊員達が活躍する21世紀は、まだまだ大丈夫です。

ボーイソプラノの頃から私は歌が大好きで、芸大を卒業する頃、縁あってボイストレーナーとして合唱隊に迎えられました。それから約10年。指導者としてここで隊員達と一緒に学んだことは、広告の世界で働くようになった今も、アイデアの源泉だったり、心の支えだったり、行動のヒントだったりします。とくに海外演奏旅行や、第一線の演奏家とのリハーサルや本番を間近で見聴きできた事は、貴重な体験です。

ロンドンのウェストミンスターカシードラルで、私が撮った司教と合唱隊。その6×7の写真が朝日新聞に掲載されたのを、もしかしたらご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。もう10数年前のことですが。

「聖堂コンサート」と銘打って、合唱隊がイタリアと英国の聖堂をまわったこの演奏旅行は、いまも鮮やかに脳裏に甦ります。ウェストミンスターでは、ボイストレーナーの私は映画「薔薇の名前」に出てくるような古い石の螺旋階段昇って、冴子先生が振るバードの3声のミサを、天上近くでうっとり聴いたりしながら、日本の子供達が英国でW.バードを歌っている不可思議に、しばし酔ったものです。

ポーロ・アヌイ神父の後盾で長谷川新一先生が始められた東京少年合唱隊。その歌の精神は、近頃忘れられがちな「感謝」や「敬虔」の心を学ぶ事だと解釈しているのですが、ベニスのサンマルコ寺院、サンピエトロ大聖堂、フィレンツェのサン・ロレンツォ、ロンドンのウェストミンスターといった数百年にわたり宗教音楽の殿堂だった空間に、隊員達の歌声が響くのを聴くと、文字通り“天へと昇るような気分”！。聴いている内に敬虔な祈りの気持ちになり、宇宙とつながっているような一体感を感じたものでした。

そんな西洋の「響き」の体験を通じて、大学で学びきれなかった歴史や思想史、哲学や言語学等に眼が開かれた私は、音楽の聴き方、生きる上での考え方を多少なりとも深めることが出来ました。

私以上に貴重な体験を得て卒隊された方々の多くが、いま、音楽界はもちろん、エレクトロニクス、貿易、学者の世界等で、世の中のメインステージに立ち活躍されています。この厳しい時代を生き抜くについても、歌と生き方を学んだ学校として合唱隊は、いつまでも卒隊生にとって心のホームグラウンドであり続けるでしょう。創設当時、寄宿学校制のウィーン少年を始め、世界の児童合唱団を見て回り、良いところを東京少年に持ちかえった新一先生の理念は、卒隊生みんなの心の内にしっかりと根付いていますね。

その卒隊生達の支援にも支えられて、合唱隊も45周年。2001年には、いよいよ50周年です。

主催者でもない私が先走って。そう怒られそうですが、世の中がこんなに大きく変わってきている今、50周年のコンサートは、先進と伝統が融合した新しいステージになるんじゃないかな？と、今から期待しています。50年間培ってきた合唱隊の精神（グレゴリオ聖歌から学んだ歌の心）。新しい時代へ向けての委嘱パフォーマンス。作曲家、演奏家、評論家の先生方をはじめ、世界の音楽仲間とのネットワーク。巣立った隊員達との新たなコミュニティー。児童合唱に関わる知的資産の構築と公開（ライブラリー開設？）。テーマはいくらでもありそうです。

もしかしたら50周年のステージ上では、東京少年のインターネットのホームページが大映しになったり、木の十字架やウィーン少年から通信でリアルタイムの祝福の歌を贈られるなんて、ネットワーク上の演奏旅行も実現しているかも知れませんね。

45年前、新一先生が日本の児童合唱を切り拓いたように、冴子先生を中心に隊員が対話しながら切り拓く、児童合唱の夢の21世紀ビジョン！

みんなが少しずつ手を貸して、ちょっとでも実現できたらいいですね。

今年、英国イートン校聖歌隊505周年、ウィーン少年498周年、木の十字架89周年、ハノーバー44周年、そして、われらが東京少年45周年。これからがますます楽しみです。まずはともあれ、おめでとう！

元指導者
岸　美宏（広告代理店勤務）

東京少年少女合唱隊45周年おめでとうございます。数ある児童合唱団の中でも、東京少年少女合唱隊が国内外で輝かしい実績を重ねられていることは、ＯＧのひとりとして喜ばしいかぎりです。

今から？十年前のこと、私は小学２年生。新大久保のスタジオに初めて伺った時のことです。２階の陽の射しこむそのお部屋に、やさしい笑顔のなつよ先生がいらっしゃいました。私は何も知らずに、ただ大きな声で、“花の街”を歌っていました。すると、なつよ先生はやさしく微笑んで握手してくださいました。それが私のオーディションでした。

それから、日本のうた、英語のうた、ドイツ語のうた……などなど、どれほどたくさんの素敵な歌を教えて頂いたことでしょう。そして何よりも、グレゴリオ聖歌を教えて頂いたこと……〈旋律〉をシンプルに歌うことがどれほど美しいものであるかを、新一先生、なつよ先生は教えてくださいました。そしてこのことを目標に、私は歌の道に精進してまいりたいと思っております。

東京少年少女合唱隊のこれからのご活躍を心からお祈り申し上げます。

少女第13期生
平松　英子（声楽家）

創立45周年を心からお祝い申し上げます。東京少年少女合唱隊は、私にとって宝石箱のような存在です。宝石箱のふたを開けると、合宿や演奏旅行、交歓演奏会……等、たくさんのすてきな思い出が、当時習った歌と共に飛び出してきます。数々の貴重な経験を通して歌うことの楽しさと本当の意味での音楽を愛することを学びました。その中で、色々なことを吸収し、表現することの大切さも教えていただきました。21世紀を目前にした今、音楽の意義、音楽の存在そのものの意味をどう捉えるかあらためて考える時期にきていると思います。名実ともに日本を代表する合唱隊として、真実の音楽芸術の創造の道を切り開いていって下さい。

少女第14期生
高木かおり（NHK交響楽団勤務）

ＷＯＷ！

２月中旬頃、冴子先生から電話を受け、45周年と聞いた時の最初の言葉だった。そしてハノーバー少女合唱団が、また記念すべき時に来日、合同でコンサートをするとのこと。そればかりでなく、子供たちにとっても、子供の頃から異文化の人たちとの交流が持てるということは、すばらしいことである。

私がシニアの一人として独演奏旅行に参加したのが1980年だから、16年前のことになる（!!）　中高生といえば多感な時期、私は完璧にドイツ・オーストリアに感化された。まず演奏旅行に立つ前、NHKの独語講座をねむい目をこすって毎週11:30p.m.から30分見たことからヨーロッパ文化に意識的にふれはじめたのである。そしてドイツでのグレゴリオ聖歌を教会で歌うという経験、体験は、今の私の生活の基本になっているといっても過言ではない。そして今、日本人という大きな強みと弱味と戦いながら、イギリスで、イタリア・オペラを中心にフランス、ドイツ・オペラ等を勉強している。

いろいろな場で活躍している卒業生は少なくない。これからもきっと飛躍する人たちがでてくることだろう。それはまさに貴重な経験を得る機会の多い東京少年少女合唱隊ならではないか。

私が感じているように、これからも隊員たちに大いに学び、可能性の価値を無意識にでも感じ、次の糧になるように、この時期を楽しんでもらいたいと思う。

Have a fruitful & dinamic time in the Concert！

少女第21期生
榎本　明子（声楽家）

わたしたちもこのコンサートに協力しています

'87. 3月　四旬節第４主日のミサ、パリ・ノートルダム大聖堂

アルパインツアーサービス株式会社

株式会社榎本建築設計事務所

社団法人北里研究所　北里研究所病院

株式会社クマ・デザインワーク

株式会社佐々木組

株式会社サタケ

シダックス株式会社

女声合唱団Ｆ．Ｃ．Ｇ．

株式会社ショパン

株式会社盛好堂

東京アカデミー合唱団

東京モーツァルト・オペラシアター

東芝イーエムアイ株式会社

東芝ツーリスト株式会社

株式会社東綜合設計事務所

株式会社都市建築設計

７７ギャラリー

練馬中村橋　扇内医院

箱根塔の沢　一の湯

ＢＭＧビクター株式会社

柳屋商事株式会社

株式会社山縣製作所

株式会社レンジャー

（50音順）

ハノーバー少女合唱団を迎えての「45周年記念演奏会」開催にあたり、上記の皆様から暖かいご支援を賜りました。ご芳名を記してご好意に厚くお礼申し上げます。なお、山崎製パン株式会社様、並びに練馬区国際交流協会様には、この度の国際交流企画に対し、食事、ホームステイの分野での多大なご協力を賜りましたことをご報告申し上げ、重ねてお礼申し上げます。

東京少年少女合唱隊45周年記念演奏会「手をつなごうコンサート」
実行委員会　委員一同

GREEN VISION
人も地球も植物によって守られている
緑の暮らしが基本です。

すこやかな植物素材。
やさしさとうるおいを大切にしました。

お肌や髪に使うのだから、安心がはじまりです。

桃葉グリーンシリーズ 桃葉エキス配合・天然香料・無着色。徹底して植物性にこだわりました

桃葉グリーンシャンプー

桃葉グリーンコンディショナー

桃葉グリーントリートメント

桃葉グリーンシャンプー（リーフィル）

桃葉グリーンコンディショナー（リーフィル）

石けんタイプのシャンプー＆リンス

なたね油のなめらか効果で、地肌から健康な肌に

なの花畑シャンプー

なの花畑シャンプー（リーフィル）

なの花畑リンス

なの花畑リンス（リーフィル）

本釜焚き

伝統製法で素材を生かした
おだやかな植物石けん

なの花畑

玉の肌石鹸株式会社

●本社　〒130　東京都墨田区緑 3-8-12　TEL 03-3634-1345（本社）　●大阪　●名古屋　●広島

パリ・ミッション会の宣教師として我が国に渡り、生涯在住した、故ポーロ・アヌイ神父（グレゴリオ聖歌の指導者でもあった）様のご指導とご協力を得て私は長年の夢であった少年合唱の仕事に取り組みました。それが何ともう45年にもなり、正しく"光陰矢のごとし"感無量の一言です。

この長い間、言い尽せない程の思い出が走馬灯のように浮かんでまいります。

この度はその創立45周年を祝う記念コンサートのため、たくさんの方々から、それぞれに心のこもった温かい励ましのメッセージを頂き感激ひとしおでございます。

またこの間わが国では、現在数えきれないほどの少年少女の合唱団が誕生し、それぞれおおいに活躍しております。その種を蒔き、この実りを見たことは誠に喜ばしく私の誇りとしている次第です。

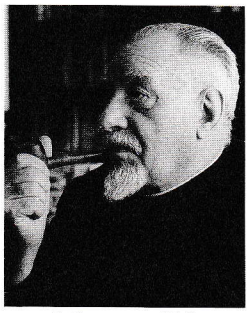
さて今年は私もいよいよ高令を迎えましたが命の続く限り、次なる50周年に向け、現指導者たち共々次代を継ぐ後進たちのため、そして又、少年少女たちの豊かな音楽向上のため力を尽くしてまいりたいと念願しております。

なにとぞ今後ともよろしくご指導ご支援の程お願い申し上げ私のごあいさつと致します。

平成八年弥生 佳日

東京少年少女合唱隊
理事長 長谷川新一

指 導 者


故ポーロ・アヌイ神父

永世指揮者：故ポーロ・アヌイ神父

初代指揮者：長谷川新一　理事長

常任指揮者：長谷川冴子

副 指 揮 者：長谷川久恵

指　導　者：有澤　圭子
五十嵐三喜
花澤利枝子

歴代指導者
三島　安秀（故）
堀内　秀治
小林いつ子
須貝　尚子
村谷　達也
泉　靖彦
佐藤　元美
笹倉　強
大江　秀子
大野　久子
加茂　範子
川口　晃
菊谷都紀子（旧・久保田）
森川マチ子（旧・杉山）
畑中由美子
岸　美宏
飯塚喜世子（旧・長田）
篠崎めぐみ（旧・中村）
桑沢ゆかり
津川　唯一
照屋幾久子
河井エーヴァ
篠田　正臣
藤巻万由子（旧・磯田）
吉田　温子

皆様には、お忙しい中、記念の演奏会にお運びいただき、厚く御礼申し上げます。

私どもは、今年一年間を通して45周年の記念コンサートを３回計画しております。今回はその第一回目で、ドイツ・ハノーバー少女合唱団をお招きしての会です。この合唱団は '80年に初来日し、ご縁があってジョイントコンサートを行ないました。同年私どもはその返礼で訪独し、ハノーバーで毎年行なわれているヘーレンハウゼン夏期音楽演劇祭に参加させて頂き、再度少女合唱団と一緒に演奏することができました。

ハノーバー少女合唱団は私どもの先生格にあたる合唱団です。あらゆる面で優れており、とくに音楽性の高さに心から尊敬しています。

３年前になりますが指揮者のルット先生よりお電話をいただき、２度目の日本公演を希望する意向をうかがいました。以来FAXのやりとりが続き、日程のことマネージングのこと等色々と検討した結果、ハノーバー側は私どもの45周年記念の年にあわせて「お祝いに歌いに行きます。」との嬉しいご返事を戴きました。

“Holding Hand-in-Hand Concert〈手をつなごうコンサート〉”のタイトル、その主旨を大変喜んで下さり、曲目決定にずいぶん時間をかけ考えて下さいました。その曲目は得意とする現代作品、ドイツ自慢のロマン派合唱作品と民謡でまとめられました。

私どもはここ数年、初期ルネサンス作品の勉強を続けておりますので、第１部に“ラス・ウェルガス写本”より２曲と、来年没後500年になるオケゲムの”ミサ・ロム・アルメ”より２曲を取り上げました。ラス・ウェルガスの修道院には100人余りの貴族出身のシスターがおられたそうです。今日はかつてのシニア・コアのメンバーもお祝いにかけつけてくれますので、13世紀に思いを馳せて祈りの歌を唱和したいと思います。

第二部では、昨年没後50年であったバルトークの作品２題と、同じハンガリーの現代作曲家イエネイの作品です。バルトークの作品を手掛けるようになって十数年になりますが、演奏する度に、技術の向上を促されます。イエネイの”小鳥のおさそい”は作曲家の細川俊夫先生がイエネイ先生より私どもへ……と、預かってきてくださったものです。前回はシニア・コアが原語で歌いましたが、今日は日本語で最年少のＣ組（１年、２年）の小鳥のようなメンバーからＢ組、Ａ組、そしてシニアのお姉さんたちまで、101名の同声で４声のカノンを歌います。

尚、邦訳に際し私どもの指導者の一人である河井エーヴァさんにお願いし、日本語詩は、荒牧裕晴先生のお力を仰ぎました。ご尽力に感謝いたします。

「手をつなごうコンサート」のシリーズは、一昨年５月、デンマークのコペンハーゲン少年合唱団を迎え、東京近郊のア・カペラ合唱を志す合唱団や学校の音楽部の方々と共に歌い合うことを目指してスタートいたしました。以来、様々な形で続けて参りましたが、４回目の今回はクワイヤー席に10団体147名のシンガーが聴きに来て下さいました。

プログラムの最後に、ドイツ民謡“Kein schöner Land〈美しき国〉”と日本の作品“星めぐりの歌”を共に歌いたいと思います。この“星めぐりの歌”は、長い間「林光・東混八月のまつり」で歌い続けられており、夢のある素晴らしい曲だと常々思っておりました。林光先生の編曲は輝きを加え、ファンタジーが広がってまいります。わが国の誇る文化人であり作家の宮澤賢治の生誕100年の年に、声を合わせて歌うことのできる機会に恵まれました事、嬉しく存じます。

合唱音楽が心の糧となるような歩みを進めてまいりたいと思っております。どうぞこれからも相変わりませず、厳しいご指導をよろしくお願い申しあげます。

東京少年少女合唱隊
常任指揮者　長谷川冴子

クワイヤー席にご参加くださる団体を紹介します。

植竹こども合唱団（指揮者：須藤和子）
小田原少年少女合唱隊（指揮者：桑原妙子）
千葉県市川市立大野小学校合唱部（指揮者：峰弥生）
千葉県市川市立幸小学校合唱部（指揮者：多田博子）
ときわ平少年少女合唱団（指揮者：相良文明）
栃木県立宇都宮中央女子高等学校合唱団（指揮者：江面誠子）
トロワザミ・エ・プリュ（指揮者：須藤和子）
長野少年少女合唱団（指揮者：山本美智子）
新座児童合唱団「コーロ・ミーテ」（指揮者：村田和子）
秦野ジュニア・エコーズ（指揮者：地崎律子）
藤沢ジュニアコーラス（指揮者：松下耕）

ハノーバー少女合唱団日本公演日程

'96年3月26日㈫開演：6:30　一関市　一関文化センター㈱佐々木組 主催／一関音楽振興会議／一関文化会議所 協賛
3月27日㈬開演：7:00　東京都　サントリーホール　東京少年少女合唱隊 主催　45周年記念手をつなごうコンサート／アサヒビール芸術文化財団 協賛
3月28日㈭開演：1:30　東京都東久留米市　自由学園記念講堂　自由学園 主催
3月30日㈯開演：6:30　広島市　広島平和記念聖堂　広島国際青少年協会 主催／広島ハノーバー協会／広島日独協会 協賛
3月31日㈰開演：2:00　北九州市　響ホール　北九州市少年少女合唱団 主催
4月 2日㈫開演：6:30　福岡県　福岡銀行大ホール　福岡アカデミー少年少女合唱団 主催
4月 3日㈬開演：6:00　大分県緒方町　緒方町中央公民館ホール　緒方児童合唱団 主催／緒方町教育委員会協賛
4月 4日㈭開演：6:30　宮崎市　宮崎県立芸術劇場　宮崎少年少女合唱団 主催
4月 6日㈯開演：6:30　京都府　京都こども文化会館　京都中央少年少女合唱隊 主催

Information

東京少年少女合唱隊45周年記念演奏会および海外公演

'96年 9 月13日～23日　第22回海外公演　アメリカ　ジャパンフェスティバル"Sun & Star"参加
'96年10月 6 日㈰　45周年記念演奏会 II　第 9 回 L.S.O.T. シニア・コア コンサート　(カザルスホール)
'97年 1 月19日㈰　ふるさとコンサート Part III　[主催；L.C.基金](三鷹市芸術文化センター)
'97年 3 月(予定)　45周年記念演奏会 III　(東京カテドラル聖マリア大聖堂)

東京少年少女合唱隊 メンバー募集 (少年46期生／少女43期生)
■オーディション　募集対象　小学校 1 ～ 3 年生男子・女子　小学校 4 ～ 5 年生男子
日時：平成 8 年 4 月21日㈰a.m.11:00～p.m.3:00　**料金**：3,000円　**内容**：自由曲 1 曲(楽譜持参)簡単なリズムと音感
場所：東京少年少女合唱隊スタジオ　〒169 東京都新宿区百人町1-15-28　**お問い合わせ**：東京少年少女合唱隊　03-3361-0381